



TITLE:

瀬戸臨海実験所年誌(遺稿)

AUTHOR(S):

原田, 英司

---

CITATION:

原田, 英司. 瀬戸臨海実験所年誌(遺稿). 瀬戸臨海実験所創立90周年  
(1922-2012年) 記念文集 2013: 4-44

ISSUE DATE:

2013-12-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186995>

RIGHT:

# 瀬戸臨海実験所年誌

原田 英司（遺稿）

（元瀬戸臨海実験所所長）

## 序

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所は、京都帝国大学理学部附属瀬戸臨海研究所として創設されてから、本日で75周年を迎えた。所在地は変わらず元の敷地もほぼ保っているが、建物は殆ど改築されて僅かに特別研究室だけが往時を偲ぶ縁として残るだけとなっている。職員は勿論すっかり入れ替わったし、往時の事情を語る大学関係者もいなくなり、往時を知る人も少なくなっている。周囲の情景もまた変わって、昔の有様事情を想像するのさへ困難になっている。

幸いな事に、実験所には幾つかの記録資料が保存されている。開設当時から職員や実習学生によって記された日誌が有る。記録写真集が有る。文書図面や会議記録も有る。折々に執筆上梓された紹介記事も有る。大学本部には保管された文書資料もあるし、大学が刊行した歴史記事も有る。中でも創設50周年を機に出版された五十年史は、実験所の歩みを簡明に知るに格好の読み物である。しかし、年々の出来事や人の動きなどの事実を辿るには不向きな点があり、その為に原資料をその都度調査するのは容易な作業ではない。判読理解し難くなった文字表現も多々有り、多少の予備知識がないと判定できない人名も少なくない。

この年誌は、原資料などに記された事実を伝える記事記録を抄録整理して、参照され易い資料集として役立つことを目的として作製した。全ての原資料を全部そのまま所載すれば完全な資料集となるのは当然であるが、それでは大量の錯綜した原資料を写し代えただけで参照の便にはならない。ある行事の経緯を伝える記事記録が諸種の資料に散在していれば、原資料のままではそれらを拾い出す手間はなくなる。実際、実験所に関する資料とするには必ずしも必要ではない記事も多い。例えば、日誌に記された職員の私情私憤だとか学生の戯事は、実験所の歴史を語る出来事としては必要でもないし適切でもない。これらは別の視点で考証する際に改めて参照されればよい。このような判断から、最小限の記事を原資料から選んで所載することにした。編者の意志が入っているとしたらこの選択であり、少数の誤認誤記と思われる記事などに就いての注記であり、この序文である。その意味で、五十年史とは趣を異にし読み物風とはしていない。

比較的多くの前資料があるとは言え、何時の時期にも万遍なく残されている訳ではない。学生実習日誌は学生実習の期間にだけ記録されているし、職員の日誌にも詳細の斑がある。日誌類の全く残されていない時期も多々ある。編者の選択に関りなく、本年誌の記事に濃淡が生じるところがあったと理解して戴きたい。

そうした上で、資料としての意味で重きを置いたのは次の諸点である。

- ・人の動きが分かること
- ・敷地・建物の実情が分かること
- ・出来事の経緯が分かること、その為に日誌風に記事を配列したこと
- ・生活事情などが分かること

- ・実習や研究の一端が伺えること

記事は参照の便を考えて、各年度ごと、職員構成・人事異動、敷地・建物、出来事日誌、参考資料・関連記事などに分けて、記載してある。但し、年度に纏めたのが利用し易かったかどうかは保証の限りではない。

大学院重点化という理学部あるいは京都大学の大きな改組の中で、瀬戸臨海実験所は取敢ず元のまま理学部の附属施設として残った<sup>(1)</sup>。しかし、今後どのような路を進むのか、転換点にあるようにも思える。当初は創設 70 周年を機にと作成を準備して来たものであるが、水槽室の大改修なども行なわれて多端のうちに記念行事も殆どしないまま、この年誌の作成も遅れ、そして今、実験所の新たな節目を迎え、恰も京都大学の百周年にも当たり、区切りとしてむしろ相応しい時点に至ったように感じている<sup>(2)</sup>。

本誌を編するに当たっては、特に次の方々には御教示を受けたり資料や情報を提供して戴くなどのお世話になった。記して深謝したい<sup>(3)</sup>。

ひのとうし  
丁丑七月二十八日<sup>(4)</sup> 原 田 英 司

## 補足事項

- ・原田が残した遺稿について、改行・改ページ・段組・字体等を適宜調整し、体裁を整えた。
- ・明らかな誤字脱字や、日誌の原文などで確認することが出来た誤記については、修正を加えた。これら以外は、原稿のまま印刷した。
- ・文中注釈が必要と判断された箇所については連番を振り、注記として本冊子の末にまとめた。
- ・ルビについては、原田による地の文のみとし、引用文には一切振っていない。
- ・文中〔 〕内は、原田による注釈である。
- ・参考資料のうち「 」で括られたものは手書きによる資料、『 』で括られたものは印刷物として出版された資料を示す。

## 1920 (大正 9) 年度

### ◆実験所記事

◇京都帝国大学理学部、附属臨海研究所設置予算要求「大正六年始めて京都帝国大学理学部に生物学の開かれる事に決するや、同時に、臨海研究所の必要を感じられ、何とかして、其設立を期する考へは教室の創設に與った人々の心中にあった。それで先づ大正九年に之に要する豫算を請求したが、翌十年度に於て設備費用十五萬圓が貰へる事になった。此豫算の確定する以前、凡そ成立の見込がついた頃、生物学教室方面に於て、主として此設立の事に與って居られた故池田岩治教授が研究所の候補地物色のため、大正十年始め、和歌山縣、三重縣の海岸を巡り、諸所の地を檢分の末、種々の點より見て、現在の敷地が最も適當と考へられた、そして愈々豫算確定の後、大學側と縣、郡、村の當局者等と種々折衝の上、地方より設備費中に五萬圓の寄附を受ける事となり、尚、瀬戸鉛山村よりは敷地一萬二千坪餘を提供する事に決した。……此研究所の創設には多數の人々の力に與った事であるが特に地方の人達の盡力に大に謝すべき者がある。就中此事のために多額の金員と土地とを提供された瀬戸鉛山村の人々の好意は最も特筆に値する。其他縣知事小原新三氏、當時、事務官藤岡長和氏、稻葉健之助氏、西牟婁郡書記、桑原豐藏氏、瀬戸鉛山村長浦漣氏、個人としては徳川頼倫侯、紀南眞珠養殖場主芝田與七氏、又、大學當局者として總長荒木寅三郎氏、當時、書記官岡本一郎氏、事務官福井正太郎氏、書記石津秀實氏、建築を擔當せられた技師永瀬狂三氏、入神丸の設計に當られた加藤成一氏等の盡力と好意を記さねばならぬ。」(駒井卓、『京都大學瀬戸臨海研究所』、動物学雑誌、35 (416)、1923) [註. 瀬戸鉛山村よりは敷地一萬二千坪餘を提供というのは

誤りで、敷地は 10,206 坪、無償寄付されたのはその内の 3,227 坪 ; 1921・1922 年度の記事参照]

◇瀬戸臨海研究所設置候補地を瀬戸鉛山村番所崎<sup>かなやま</sup>桔梗平に選定

◇和歌山県寄附、約 5 万円相当の建物および図

◇政府支出金約 11 万円

2 月 20 日 池田岩治教授 (理学部動物学教室第 1 講座) 他、瀬戸鉛山村来訪

### ◆参考資料

「瀬戸臨海研究所・実験所日誌」(1922・1973、実験所保存、全 7 冊) [1 冊は A 4 大判、1922.07.13・1927.08.14、主として実習学生による記録 ; 1 冊は A 4 大判、1922.07.14・1927.07.07 と 1949.08.10・1956.12.04、職員による記録 ; 1 冊は A 4 大判、1928.07.05・1939.07.10、職員による記録 ; 1 冊は B 5 大判、1939.07.12・1949.08.09、職員による記録、1945・1949 は内海富士夫 ; 1 冊は B 5 大判、1956.12.07・1967.12.29、内海富士夫による記録 ; 1 冊は B 5 大判、1968.01.01・1973.04.06、内海富士夫による記録 ; 1 冊は B 5 大判ルーズリーフ、1973.04.01・1973.11.26、時岡隆による記録]

「瀬戸臨海実験所日誌抜粋」(内海富士夫編、実験所保存) [五十年史の執筆のために内海富士夫がまとめたもの、日誌にない記事や加筆補足がある反面、多少の誤記もある]

「臨海実習記録」(1936・1968、実習学生による日誌、実験所保存、全 10 冊)

I : 1936.04.08・1943.04.08

II : 1937.06.28・1948.04.17

III : 1948.06.18・1954.07.27

IV : 欠

V : 1955.07.13・1957.07.20

VI: 1958.04.03・1961.08.01

VII: 1962.04.03・1966.03.31

VIII: 1966.07.17・1967.03.30

IX: 1967.07.14・1968.04.02

X: 1968.07.18・1972.07.15

「会議記録」(1957・、実験所保存) [1976 以降は配付した会議記録・資料などの綴り]

「実験所写真集」(1922(?)・、実験所保存)

『水族館月報』(瀬戸臨海実験所振興会、1952・1964、実験所保存)

『瀬戸臨海実験所年報』(瀬戸臨海実験所、1987・)

『瀬戸臨海実験所五十年史』(京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所、1972)

『京都帝国大学史』(京都帝国大学、1943)

『京都大学七十年史』(京都大学、1967)

『瀬戸臨海実験所に関する文献』(瀬戸臨海実験所年報、第1巻、1987)

『紀州田辺名勝舊蹟附近温泉案内』(毛利清雅、牟婁新報社出版部、2+6+98+32 頁、4 図版、1922) [瀬戸臨海研究所建物・正門の写真とともに、開所記念スタンプの写真を掲載、18 頁]

『白浜湯崎』(雑賀貞次郎、1930)

『白浜湯崎の諸文献』(雑賀貞次郎(編)、温泉の紀州社、12+294 頁、1941) [内海富士夫、「紀州沿海の生物相」、科学画報、1937、も採録]

『白浜温泉史』(雑賀貞次郎、134 頁、白浜町役場観光課、1961)

『瀬戸鉛山村村の日記』(白浜町誌編纂委員会、256 頁、1978)

『白浜町誌資料編』(白浜町誌編纂委員会(編)、白浜町、3+13+896 頁、1980)

『白浜町誌本編』下巻3 (白浜町誌編纂委員会(編)、白浜町、4+19+577 頁、1988)

『白浜、白浜町制施行50周年記念誌』(白浜町、120 頁、1990)

『ふるさと白浜』(宮崎伊佐朗、6+220 頁、1 図版、1991)

『白浜の歴史—明治編』(宮崎伊佐朗、60+521 頁、1994)

#### ◆参考記事

◇1915 (大正 5) 年 6 月、医科大学長荒木寅三郎が総長に叙任

◇1919 (大正 8) 年 2 月 6 日、京都帝国大学理科大学を京都帝国大学理学部と改称

◇1919 (大正 8) 年 2 月、川村多実二(動物学) 助教授に補任

◇1919 (大正 8) 年 7 月、生物学科動物学講座設置

◇1919 (大正 8) 年 8 月、池田岩治(広島高等師範学校教授) 動物学講座担当教授に着任

◇1919 (大正 8) 年 9 月、小泉源一(植物学) 助教授に補任

◇1919 (大正 8) 年 10 月、桑田義備(植物学) 助教授に補任

◇1920 (大正 9) 年 1 月、教授河合十太郎(数学) 理学部長に叙任

◇1920 (大正 9) 年 8 月、郡場寛(東北帝国大学教授) 植物学講座担当教授に着任

◇1920 (大正 9) 年 10 月、駒井卓(動物学、講師) 助教授に昇任

◇1921 年 1 月 29 日、「京都帝国大学にて三重県か和歌山県に臨海研究所を設置することになり候補地たる本村へも池田理学士が来村されて海岸の状況などを調査され、大いに有望とのことで、本日瀬戸部会を開き崎の浜の部有地及村有地一町三反歩を提供して誘致運動を起すことを決議する。」

(白浜町誌編纂委員会、1968、『瀬戸鉛山村村の日記』、31 頁)

◇用地取得異聞。「(番所山の) 麓の崎の浜の辺りは野生の桔梗が一面に繁殖していたので、桔梗平と言

い伝えられ、.... この地に京都大学が臨海実験所を建設したいとの申し入れがあり、瀬戸部有財産である土地なので大正十年（1921）2月部落の総会を開き、土地発展のために無償提供して大学の要望に応える決議をした。大学当局では瀬戸部の好意に対し六千円の祝儀を贈り、瀬戸臨海実験所の名称を用いることとし」（宮崎伊佐朗、1991、『ふるさと白浜』、169頁）

◇大阪商船紀州航路（大阪一名古屋）及び同急行汽船（大阪一勝浦）「大阪又は和歌浦より往来するに一日、三回、伊勢湾、鳥羽から一日、一回の船便がある。時刻運賃等次の通り、.... 田辺と湯崎の間には一日、四回発動機巡航船の往復あり、又、田辺と網不知間にも快俊丸と云ふモーター船が一日、四回両地間を往復して居り、田辺と江津良との間にも一日三回許り往復する巡航船がある。汽船は急航船が最も大きく七百三十噸、他は四百噸級、又は、それ以下の船である。急航船〔大阪発後2時半田辺着後11時〕に乗って往けば、田辺に一泊して翌朝、巡航船に乗るのが便利である。浪さへ高くなければ、田辺、網不知間の快俊丸又は田辺、湯崎間の清姫丸に乗れば午後十二時迄には研究所へ着く事が出来る。.... 尤も汽船欠航の場合は田辺、平潟口（シラカタグチ）間を運転する自動車があるから之れに據る事も出来る。」（駒井卓、同上）

◇鉄道：南海線和歌山市驛まで開通

◇在處古事：「寛永貳拾年 一、瀬戸崎御番所初、与力衆毎月交代被仰付」（『萬代記』、『白浜町誌資料編』採録）〔1643年癸未〕

「慶安参庚寅年 一、大納言様瀬戸へ入御被遊、瀬戸御殿御普請奉行本間五兵衛殿」（『萬代記』、『白浜町誌資料編』採録）〔1650年、紀州藩主徳川頼宣〕

「瀬戸浦 私曰ク村カ 在家アリ、高二百一石余ナリ、前は砂浜ナリ、出崎ニ常番所有リ、寛永二十年ヨリ始マルトナリ、.... 瀬戸ノ在家ヨリ西ニ当リテ、先君ノ御殿有リシガ、今ハ廃セラルハナリ、此間ニ

ムバメ谷ト云フ所有リ、海際ナリ、.... 又鉛山ノ上ニモ前君ノ御殿アリシガ今ハナシ、統テ此辺ノ山ニハ桔梗多シ、」（児玉荘左衛門、『紀南郷導記』、1689、『白浜町誌資料編』採録）

「瀬戸村 此磯崎を牛の鼻と云、牛鼻に似たる岩穴有、四相島白崎と云所有、.... 桔梗平と云所有、御番所有、姥目谷と云所有、」（玉川玄竜、『熊野巡覧記』1794、『白浜町誌資料編』採録）

「瀬戸村 世登 小名網不知.... 此地は牟婁ノ温泉の地にして古は別に大名なし、其地形古海湾の北の端中間南北に切れて島ありて別に迫門〔セト〕をなせり（島は即今の遠見番所及御殿跡の地なり）海潮退きて迫門陸となり島と一となる。.... 迫門の名此地の大名となり、文字を瀬戸と改む。」（紀州藩、『紀伊統風土記』、1839、『白浜町誌資料編』採録）

「瀬戸崎番所 村の西曲湾の北の端の山上にあり、其山桔梗多し、故に桔梗平といふ、異国船斥侯の番所なり、寛永二十年より田辺与力三十六人一月替に輪番して是を守る」（同上）

「瀬戸崎 今の瀬戸の西あり、曲湾の北の端山に異国船斥侯番所ありて寛永二十年より田辺藩与力三十六人が一月代りに輪番せし處なり、此山桔梗いと多し、故に桔梗平といへり、其西海浜に並ひて嶋あり土人今とう嶋といふ。」（宇井可道、『牟婁郷名勝誌』、1918、『白浜湯崎の諸文献』採録）〔続いて、『萬葉集』巻12、「室の浦の湍門の崎なる鳴島の磯越す波にぬれにけるかも」（3164）は瀬戸崎のことと解釈している〕

「北の灘ハ白良の浜高島遠見台目鑑岩瀬戸の浦筏はへ沖ノしそ江つら綱しらす、.... 眼鑑岩 瀬戸の浦より高島遠見台を過、絵のこことなる島中目鑑のことく、田辺綱しらすへ入海の口にあり」（国香軒蘭秀、『温泉の日記』、1834、『白浜町誌資料編』採録）

「瀬戸領大フ名小名凡九拾七程 一、瀬戸地下村一、権現崎.... 一、馬部谷井とびとも申侯 一、長

はへ 一、瀬戸のわき 長左衛門の下をいふ 一、  
 崎の浜并大岩の口 御殿場南浜をいふ、此所ニ有り  
 一、御殿有 一、御番所有 此山を桔梗平と言 一、  
 高島 御番所南前左ニ有 一、あなご島 高島馬部  
 谷向のはなれたる島をいふ.... 一、とう島 但しう  
 しの鼻ともいふ、唐島の北の方なり、ニツ岩に穴有、  
 但し此頃右之穴一ツかけたり、今ハ穴一ツなり」  
 (『瀬戸古事』、1848、『白浜町誌資料編』採録)

「眼鏡岩 瀬戸の沖にあり、岩の正中に穴有、昔は  
 両方穴ありし岩も有りしかども、今ハ崩れてなしと  
 いふ」(暁鐘成、『西国名所図会』、1848、『白浜町誌  
 資料編』採録)

「二十六日発田辺城至于湯崎、此地有温泉、午後抵  
 網不知浦、沸岸島及崎浜... 白珊瑚水中白石以上崎  
 浜」(小野蘭山、『南紀採葉志』、『白浜町誌資料編』  
 採録) [1802 年享和二年三月]

## 1921 (大正 10) 年度

### ◆実験所職員

◇4 月 1 日現在在職者

なし

◇年度内異動 (日付順)

助手 井狩 二郎 (任用、1921.10.31)

雇員 雑賀 弥之助 (任用、1922.02.22、船長)

雇員 正木 常蔵 (任用、1922.02.22)

雇員 真鍋 繁次郎 (任用、1922.02.26、機関長)

講師 赤塚 孝三 (任用、1922.03.23)

3,227 坪

3 月 23 日 赤塚孝三講師、着任

3 月 28 日 採集船として和船 3 隻購入

3 月 25 日 民有地買収、6,526 坪

3 月 30 日 研究船「入神丸」(19<sup>トン</sup>) 回航到着

？月？日 (春) 竣工

### ◆実験所資料

◇土地取得に関する書類、京都大学事務局経理部管  
 財課に保存

### ◆実験所敷地建物

◇研究所敷地：9,753 坪、寄付並びに買収

◇研究所建物：木造平屋赤瓦葺<sup>かわらぶき</sup>6 棟、計 1,223 m<sup>2</sup> 研  
 究室、特別研究室、学生実習室、水槽室、寄宿舍、  
 所員官舎

### ◆参考資料

『ふるさと白浜』(宮崎伊佐朗、1991、6+220 頁、  
 1 図版)

『白浜の歴史 — 明治編』(宮崎伊佐朗、1994、  
 60+521 頁：293 頁参照)

### ◆実験所記事 (4 月 1 日 — 3 月 31 日)

？月？日 (夏) 瀬戸臨海研究所建設工事起工 (？5  
 月 22 日)

8 月 16 日 瀬戸鉛山村村有土地を官有に寄附の件、  
 西牟婁郡長により許可

2 月 22 日 井狩二郎助手、着任

3 月 17 日 瀬戸鉛山村より土地寄付、文部大臣承認、

### ◆参考記事

◇1921 (大正 10) 年 4 月 13 日、動物学第 2 講座お  
 よび植物学第 2 講座増設、従来の動物学講座と植物  
 学講座は動物学第 1 講座、植物学第 1 講座と改称、  
 生物学教室を動物学教室と植物学教室に分離

◇1921 (大正 10) 年 5 月、川村多実二助教授、教

授に昇任、動物学第2講座担当

◇1921（大正10）年12月、教授松井元興（化学）理学部長に叙任

◇1922（大正11）年1月、桑田義備助教授、教授に昇任、植物学第2講座担当

◇建設工事異聞。「五月に至り、初代所長となられる教授の池田理学博士一向が来村されて、翌年春3月完成竣工の予定で工事を始められることになった。当時この辺りは海岸一帯に『ほの木』が這い茂り、『浜えんどう』の紫の花がよく咲き、雑木林の中の砂地の痩せた畑には桑や芋などが植えられて、瀬戸からは山越しの狭い堀割り道を通して、時々百姓が出かけるだけであり、釣好きな連中は倉の鼻や九郎右エ門谷の磯伝いに干汐の時、高島の元や大久曾の元などの磯釣場に通ったが、昔から狐や狸が横行する故ばかりではない淋しい所だと言い伝えられている井戸の谷や馬部谷などを通るので、日没までのんびり糸をたれている者は居ない始末であった。工事が急がれて、近在の大工や人夫も大勢入り込んで来て、先づ工作用のバラック小屋が二三軒建

てられて、その人夫たちによって雑木林は伐り拓かれ、手入れの届かない桑や芋畑が掘り返された。工事が進捗するにつれて、人夫のふるうシャベルの先に白骨が日増しに数多く掘り出され、そうした日が続いて地均しが済んだ時、四十余の遺体の白骨が数えられた。村の人はその話を聞く毎に、何か不吉な予感で不案内な噂を仕合った。……やがて村人の不吉な予感は現実となって現われる時が来た。水槽室建築中の若い大工が足を踏みすべらして夏の真昼間、その亡骸を砂原にさらしたのである。」（宮崎伊佐朗、1991、『ふるさと白浜』、169-170頁）

「工事は予定よりも遅れ遅れて、五月終り漸く完成」（宮崎伊佐朗、1991、『ふるさと白浜』、172頁）

◇入神丸回航異聞。「三月実験所に新造の実習船入神丸が大阪から廻航されて、瀬戸湾や網不知港で機関の音も軽く試運転をして村の人たちに披露された。船長は西地の雑賀弥之助氏、機関長は網不知の真鍋繁次郎氏らである。」（宮崎伊佐朗、1991、『ふるさと白浜』、172頁）

## 1922（大正11）年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

講師 赤塚 孝三

助手 井狩 二郎

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動（日付順）

幹事 川村 多実二（動物学教室教授）（就任、1922.06）

### ◆実験所敷地建物

◇研究所敷地：11月24日、脱落地、大阪税務監督局より管理換、433坪

計10,206坪（推定約40,770㎡）

### ◆実験所記事（4月1日—3月31日）

4月4日 畑井新喜司教授（東北帝国大学）来所

5月15日 赤塚孝三講師、官舎に入居

7月13日 研究所日誌始まる、「快晴海上平穏ナリ 山田種三郎君来場」（研究所日誌記事全文）

7月14日 「晴 午前七時入神丸田辺ニ向フ 午後



一時駒井助教授ヲ乗セテ帰着。教室ヨリノ荷物到着。午後全荷物ノ整理。午後一時半三木茂君来場シ附近ノ海藻ヲ採集ス。四時高島附近ニテ入神丸ヲ記念撮影ス。午後十一時山田、三木両君研究所、鉛山前ノプランクトン採集。」(研究所日誌記事全文)

「好文堂ニテ案内状二百枚ノ印刷ヲ依頼ス。日高水力電燈株式會社ニ至リ料金其他ノ件ニツキ協議ス。」(研究所日誌記事抜粋、上記とは別冊)

7月15日 臨海実習開始、27日まで、駒井卓助教授ほか指導「晴 午前一時半土田清忠、東光治、土屋格、鈴木栄二、晴山省吾、杉本唯三、前田威成、清水節、増井公木ノ諸氏研究所迎エノ和船ニテ鉛山ヨリ到着ス。午前七時半鈴木君高嶋附近ノプランクトン採集。本日ヨリ当研究所ニ於ケル第一回臨海実習開始。実習予定次ノ如シ。毎日午前8-10時プランクトン、10-12時解剖、午後随意。16日、ウニ；17日、ウニ発生；18日、ウニ発生；19日、磯採集；20日、ウメボシ其他磯採集動物観察；21日、*Dicyema*<sup>④</sup>；22日、イカ；23日イカ；24日、クラゲ；25日、ダイガセ；26日、外洋採集；27日、外洋採集動物観察；28日、開所式。」(研究所日誌記事抜粋)

「前日日高水力電燈株式會社ヨリ技師来リメートル器其他配電装置ヲナシ歸リタルモApolo<sup>⑥</sup>運転セズ。本日動力休業ノ趣ナリ。..... 賄ハ小使正木ヲシテナサシム。食料学生一円二十銭教官一円五十銭。入神丸錨留中ハ船員一名ヲ宿直セシメ実験中一名ハ実験室ノ雑務ニ服セシム。他ハ場内ノ監視ニ任ズル事トナス。本期実習予定左ノ通り定メラル。毎日、午前八時—十時プランクトン、十時—正午解剖、午後随意。..... 赤塚講師令室病氣ニツキ芝田氏案内ニテ田辺医師来ル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月16日「未明。山田、土屋両名、瀬戸村沖にて上曳きす。八時よりプランクトン検鏡。ウニ解剖。午後三時より、半島を一周して磯採集をなす。学生五名岩穴中の水をカヒボして二尺大のウツボ、等を獲た

り。夜温泉に行きしものあり。」(研究所日誌記事抜粋)  
「開場式案内状印刷出来、駒井教官、東講師、井狩助手ニテ和歌山県内ノミヲ発送ス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月17日「払暁晴山杉本両名 plankton ヲ採集ス(高島附近並ニ湯崎千畳敷附近ニテ)。ウニノ人工受精ヲナサントセシモ *Toxopneustes*<sup>⑦</sup>、*Diadema*<sup>⑧</sup>、何レモ熟シ居ラズ。Plankton ノ觀察ヲツヅク。午後二時一同入神丸ニ投乗畑島へ磯採集ニ行ク。二隊ニ分カレー隊ハ畑島へ他ノ一隊ハソノ対岸ノ江津良浜ニ上陸シ自ガジシ獲物ヲ獲ル。芝田与七氏ナリキ同行。..... 網不知湾深ク芝田氏経営ノ真珠養殖場アリ。..... 入神丸帰り 二隊各自ノ採集品ヲ誇ル。畑島ノ一隊ハ雑賀ノモグリテリタル cobalt 色ノ chiton<sup>⑨</sup>背ニ黄色斑アル chiton<sup>⑩</sup> [註。抹消して「*Pleurophillidi* sp.<sup>⑩</sup>」と訂正されている]ヲ誇レバ他ノ一隊ハ土田君ガモグリテリ来レル怪物ヲ誇ル。怪物ノ声ニ一同トモニカケツケ見ルニ一見サンゴノ如クラツバ状ノ個体ヲ出ス。船長等ノ談ニヨレバコレニ刺サレ又ハコレノ居ル附近ノ水中ニ手ヲ入レ攪拌スレバタダレ痛ミ劇シクカユキコト甚シトノコトナリ。ソノ何ノ類ニ属スルヤ説明ヲ与フル人ナシ。以テ怪物ノ名ヲカチ得タル所以ナリ。[註。「(*Stephanoscyphus*<sup>⑪</sup>ナリキ)」と追記されている]」(研究所日誌記事抜粋)

7月19日「午後一時入神丸ニテ田辺行。所々參觀シ午後六時帰所ス(有志者)。」(研究所日誌記事抜粋)

「女三人傭入(草取りノタメ)」(研究所日誌記事抜粋)

7月21日 森田淳一教授(大阪高等学校)来所

7月22日「朝ヨリ網不知ニテ(入神丸外和船)Dredge ヲ試ム。ほや類、角貝ノ外採集物ナシ。帰途、島島ニ寄港下船。*Balanoglossus*<sup>⑫</sup>ヲ採集ス。多クハ不完全ナリシモ完全ノモノ一尾ヲ得タリ。..... 午後諸般打合せノタメ駒井助教授ト共ニ湯崎有田屋ニ至ル。万事交渉纏マリ 450 ニテ(一人宛

3.50) 受合フストナル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月23日「今朝十時二十分川村教授田辺より入神丸にて御来着。」(研究所日誌記事抜粋)

「電気会社技師工夫来所、電力不足ノタメ、明日沖合へ採集ニ出掛ケルタメ漁夫一名雇用約束ス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月24日「外洋採集の爲め午前八時入神丸で一同出発。ウネリの爲め四、五名を除く外全部やられ顔色なし、湯崎沖 50 fs.<sup>(13)</sup>の所で前後三回珊瑚網を引く捕獲物少なし、同じ 40 fs.の所で二回 dredge を試む捕獲物やはり貧弱なりし。」(研究所日誌記事抜粋)

7月25日「電気技工来ル、塩水モーター不調ナリ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月27日「二十八日の式の準備(午後).」(研究所日誌記事抜粋)

「総長一行ハ有田屋ニ投宿セラル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月28日 開所式、午前11時、荒木寅三郎総長ほか来所列席「快晴 朝来快晴なり。午前三時郡場寛教授来場。午前十時より、一般実験室(プランクトンを顕微鏡ニテ示ス、プランクトンネット列品)、特別研究室、研究室、水槽室を公開す。近郷よりの来場者多し。午前十一時開場式。川村教授の挨拶。総長、知事、郡長、村長、区長、県会議員、貝坊主の式辞あり。撤式後、祝宴。午後に亘り、相撲、餅まき、山内役者となりプランクトン検鏡状態を活写される。この日烈日、暑気甚しく堪え難かりき。」(研究所日誌記事抜粋) [註. 村長浦漣、区長とは瀬戸部長津多佐兵衛、貝坊主とは本覚寺住職尾崎達雄のことか]

「午後一時ヨリ一般ノ観覧ヲ許ス事トセリ、午後四時閉所。」(研究所日誌記事抜粋)

7月29日「快晴 昨日来場ありし荒木総長を地方の官民が招待し歓迎会を田辺に開く、当场よりは郡場、川村両教授、駒井助教授の三氏、入神丸に搭乗、

其会に列席せらる。.... 塔島西端に井戸の形せる tide pool あり *Caulerpa*<sup>(14)</sup>の産地、其附近は *Modiola*<sup>(15)</sup>とフヂツボの「純群落」あり、後人必ず一遊を要す。」(研究所日誌記事抜粋)

7月30日「七時入神丸ニテ川村教授一行学生共拾六名出発、和歌浦ニ至ル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月31日「アボロ唧筒モーター焼キ切レ給水不能トナル、入神丸ハ午前十時半帰着ス。」(研究所日誌記事抜粋)

8月4日「正木小使ハ昨日おうむ貝ヲ採集ス。」(研究所日誌記事抜粋)

8月25日「昨夕駒井氏ヨリ防波堤工事至急開始スベキ電令ニ接シタルヲ以テ返電ト共ニ細尾茂吉氏宛ニ工事開始方ヲ打電ス、.... 水槽室モートル、機械分解手入ス、非常ニ錯ヲ生ゼリ。」(研究所日誌記事抜粋)

9月2日「*Porphyta*<sup>(16)</sup>, *Physaria*<sup>(17)</sup>, *Veleva*<sup>(18)</sup>等採集」(研究所日誌記事抜粋)

9月14日「本日淡水給水ノモーター江津良ニ到着ノ筈ニツキ船員二名江津良ニ至ル、本日モーター使用」(研究所日誌記事抜粋)

10月9日「防波堤、井戸、工事完了ス、井戸潜水ノ結果〈フートバルブ〉破損ノ為メナル事判明ス。」(研究所日誌記事抜粋)

11月9日「海岸ニ夥シキ *Janthina*<sup>(19)</sup> (朝顔貝) 寄リ来ル。」(研究所日誌記事抜粋)

11月11日「うちわゑびノ *phyllosoma*<sup>(20)</sup>採集ス、*Phylliroë* モ採集ス<sup>(21)</sup>.... 和歌山県技師中村仙之助氏〈モーター〉ノ検査ニ来ル、当所ノ motor ハ県令ニヨリ県庁ニ届ケ出スベキモノナリト。」(研究所日誌記事抜粋)

11月24日 脱落地、大阪税務監督局より管理換、433 坪

12月23日「駒井氏来ル。」(研究所日誌記事抜粋)

1月1日「本日ヨリ海水温度・比重、気温測定ヲ

開ム。」(研究所日誌記事抜粋)

1月8日 小原新三和歌山県知事来所

3月19日 臨海実習開始、23日まで、東光治講師ほか指導

3月21日 「午前中風波なく無事平穩。プランクトンにも格別なる珍妙なるものもない。午後余りの好天氣にさそわれて東講師引率のもとに山田、晴山、坪内、山内、船長、機関長、陸路網不知に出て畑島へ採集に行った。.... 網不知の波止場には機関長の貸しボート、モーターの広告板が出ている。.... 山田、山内、晴山はボートで先に漕ぎだした。.... ようやく波を切って畑島につくとしばらくして他の一行も伝馬でこぎつけた。丁度二時頃。.... 三時過ぎきあげた。帰りも風波高く半身づぶぬれ。瀬戸でマンチューをしいれてすきはらにパクツイている時....」(研究所日誌記事抜粋)

3月22日 「十一時川村教授到着さる。井狩氏がウラの砂浜で網引をやっているからと云ふ報告に応じた茶目共我も我もと駆けつける。瀬戸の村の人達の引網だ。真鍋機関長も巨軀を運んで網引の人達に加はる。.... 午後一時入神丸に塔乗。.... 高島を過ぎ四双と千量の見透しの所にてドレッヂを下ろす。.... 引上げ我一にと覗き込めばコレハシタリ中は藻抜のカラ。.... カクテはナラジと東総大將下知して更に網を下す。.... 見る見る波は高さをまし風ヒューヒューと鳴って.... 風に吹き送られ高島附近に至る時ドレッヂを上る。.... 一同断念し明朝遠征の事にして引上ぐ。実験室前にある巨松の下のコンクリート製の卓を囲んで川村先生のお土産の菓子(かぎや製)を鰹腹つめ込む。」(研究所日誌記事抜粋)

3月23日 「明日の天候の変化なきうちにと両氏[坪内、鈴木]一足先に田辺より本日出帆せんとあはてふためきつつ旅装にいそがはし。.... 風神よ今日のみは我等の為に吹かざれかしと念じつつ一同に別れを告げ研究所の石門を後に峠の道に姿を消し

た。.... 午後山内山田両君白良浜温泉に十分間入浴に出掛けた。」(研究所日誌記事抜粋)

3月24日 「山田山内両君急に本日行くと云ひ出した。無事旅装も出来て九時入神丸でドレッヂを引きながら田辺に向かった。ドレッヂには何にも収穫はなかったが.... 午前十二時田辺着錦城館で一休み中食を取る。午後二時半の急行船は約一時間おくれ田辺に入港した。山田山内両君同船で和歌浦に向った。」(研究所日誌記事抜粋)

#### ◆実験所資料

◇開所式祝辞(瀬戸鉛山村長浦漣、瀬戸部長津多佐兵衛、ほか)、京都大学事務局経理部管財課に保管

#### ◆参考資料

『故池田岩治博士』(駒井卓、動物学雑誌、34(410)、1922)

『ふるさと白浜』(宮崎伊佐朗、1991)

#### ◆参考記事

◇6月2日、池田岩治教授、逝去

◇6月18日、京都帝国大学創立25周年記念式典挙行(京都)

◇8月18日、白浜館開業、大正8年から開発された白浜温泉の最初の旅館

◇3月25日、瀬戸鉛山村の御幸通りが開通

◇開所事情異聞。「工事も予定より遅れ遅れて、五月終り漸く完成したので六月には盛大な竣工開所式を挙げるようになっていたが、この実験所設置の発議者であり、又今後の経営の責任者でもある所長の池田博士が突然急逝され、これがために急遽開所式は延期されて、流石の最高学府の学究たちも世論を無視できないで、六月三日これら多くの無縁の迷える靈魂を慰め且つ鎮魂のため、この工事中一ヶ所で十三体もの出土を見た水槽室の近くに供養の

祭壇を儲け、施餓鬼法要がいとも盛大懇ろに営まれた。」(宮崎伊佐朗、『ふるさと白浜』、1991)〔註、

池田教授急逝と供養催行を結びつけるのは、時間的に無理]

## 1923 (大正 12) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 川村 多実二 (兼任、動物学教室教授)

講師 赤塚 孝三

助手 井狩 二郎

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動 (日付順)

助手 宮下 義信 (任用、1923.04.14)

助教授 赤塚 孝三 (昇任、1923.05.14?06.13)

助手 宮下 義信 (退職、1924.03.28)

### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

6月18日「*Porpita*<sup>(22)</sup>, *Verella*<sup>(18)</sup>ニ混ジテ *Janthina*<sup>(19)</sup> 多数漂着ス、採集セリ。」(研究所日誌記事抜粋)

6月29日「大亀捕獲、外ニ卵数十個。」(研究所日誌記事抜粋)

7月19日「午後零時半片道六銭五厘の電車で天保山栈橋着。..... 二時二十分琉球丸に乗り込む。..... 築港防波堤より外へ出ると急に波が勇敢に船をゆすぶりはじめた。..... 船は次第に進み波は益々加はり..... 和歌の浦に着いた時には日も落ちて紀三井寺もはっきりとは見えぬ。..... 田辺につく二時間程前から波が高くなって船は盛に上下動をやる。その度に首を振って僅に船酔から逃れんとするの誠に悲惨である。..... 十一時半田辺着。他の客が降りつくした後で態々出迎に来てくれた入神丸に乗る。四十五分程快走して入神丸は無事、一同が未だ見ぬ恋に僅

れた我が瀬戸臨海研究所前に着いた。今日は波が少々高いのでボートをかりて砂浜に上陸した。ここに謹で、一同を田辺まで迎へられた赤塚助教授の御厚意と船員諸氏の労とを謝す。」(研究所日誌記事抜粋) 岡村金太郎氏来所

7月20日 臨海実習開始、8月2日まで、東光治講師ほか指導「午前中は各自に遊ぶ。..... 又海岸通りして、瀬戸鉛山の郵便局に行く者あり。..... 午後二時頃より、東氏指導の下に磯採集に出かけたり。」(研究所日誌記事抜粋)

7月21日「八時ヨリ 12 時迄プランクトンノ実験、十時ヨリ 12 時迄 *Liolophura japonica*<sup>(23)</sup>ノ実習。午後ハ一同午後一時ヨリ入神丸ニ乗ッテ近海実習。獲物、貝 2 ツ。船ヨイノ為ネルモノ多シ。湯崎ニ行ク。銀公ヨク漕グ。」(研究所日誌記事抜粋)〔註。銀公とは正木常蔵子息義一郎のことか]

7月22日「午後原田、汐見、細谷、平野諸氏湯崎ニ行ク。今日ハぼーとガ来タノデソレデ行ク。今日ハ四十分ハカカラズニ行ッタラシイ。..... 夕陽ガ西ノ地平線下ニ下ルノヲ見ナガラ瀬戸カラ磯伝ヒニ帰ル。足許モ危イ薄暗イ岩ノ間ヲ行ク。」(研究所日誌記事抜粋)

「Plankton 例ノ通り、*Synapta*<sup>(24)</sup>ノ larva 出ル。非常ニ珍シキモノ。」[図あり](研究所日誌記事抜粋)

7月23日「両N君今朝は大奮発して午前四時三十分といふに起きて早速水槽室の機関長室に走ったが既に遅し船員は二人で plankton の採集に出た後だった。」(研究所日誌記事抜粋)

7月24日「地質鉞物の人は入神丸に乗り化石採集

に江津良、藤島、滝内の各方面に行ったが中々有用であつたらしく、四時頃帰って来た。」(研究所日誌記事抜粋)

7月27日「富田浜沖市江崎日置沖を通過して午前十一頃周参見湾に到着投錨した。先づ上陸して本日第一の目的の珊瑚取の事に就て其の地の先進者井上氏を訪問して色々と話を聞き珊瑚の実物を拝見した。それより再び乗船して中食し直ちに岨港沖合に向つた。周参見沖約一里、水深八十尋の処に於て珊瑚網を引く事前後三回。目的物の蔭だも見なかったが海松など色々なものを引き上げたり。午後四時帰路に就く。一同疲労可成なりと為も無事研究所に帰着した時既に薄暮。」(研究所日誌記事抜粋)

7月29日「昨夜の宴会のビールのためか誰れも今朝は朝寝をして居る。……主婦の朝飯で御座いますの聲に誘はれて大食漢共は吾れ先きにと起きて食堂さして行く。」(研究所日誌記事抜粋)

7月31日「午後湯崎通ヒノ猛者連炎熱ヲモノトモセズ湯崎ニ行ク。途上瀬戸ノ貝寺ニ同寺自慢ノ貝殻ヲ拝観シ、お茶ノ御馳走ニナル。住職ノ熱ノ高キニ驚ク。而シテお茶代ヲヨクモノ(御茶代ニアラス拝観料ナラン)一人モ之アルコトナシ。」(研究所日誌記事抜粋)

8月1日「老日で電灯が休みでタンクに水が汲めず洗面の水も井戸水を汲んでもらふ。……午後は一年生全部田辺町に行くこととなる。入神丸の機関の故障のため約一時間してやって一時半に出発、四十分を要して田辺港着。高等女学校に宇井縫蔵氏を訪ねて魚の標本を見せて頂いて同氏の紹介状を持って南方熊楠氏を訪ねて大気焰を聞いて四時引上げた。……タンクに水がなくて浴場も離れの小さい方で浴る。……明後日の入神丸にては遅し明日の急行船にて是非我々二人は帰ると名乗りたれば、二週間の実習を終わって一秒も早く帰らんとする面々僕も僕もと――……全員明日午後二時の急行船にて出

発することになった。サアと赤塚先生を招いて計算して頂いた。」(研究所日誌記事抜粋)

8月2日「七時半より実習はじまる。……昼食を終り、入神丸に乗船、田辺港に行き、大阪商船会社汽船アモイ丸に乗り帰途につく。出帆時間午後一時三十分。……篠田大学院と正垣とは一行と行動を異にして下り航路により那智に向ふ事にした。……九時の巡航に湯崎湾上で間に合った。」(研究所日誌記事抜粋)

8月3日「給水タンク(アポロ)破裂ス。」

8月5日「講習生続々来所。」(研究所日誌記事抜粋)  
「井戸繁来り朝ヨリアポロポンプ修理ヲナス。」(研究所日誌記事抜粋)

8月6日 第1回中学教員臨海講習会開催、15日まで

8月16日「講習生全部退所。」(研究所日誌記事抜粋)

8月17日 和歌山県水産会主催水産講習会開催、26日まで

9月2日「東京……地震、火災等アリテ全滅ノ報アリ。」(研究所日誌記事抜粋)

11月18日「例ニヨリ *Janthina*<sup>(19)</sup>海岸ニ集マル。」(研究所日誌記事抜粋)

1月20日「電話(湯崎第四十七番)開通ス。」(研究所日誌記事抜粋)

3月16日「去ル二月末カラ和歌山市箕島間汽車開通ト同時ニ箕島田辺間定期自動車ガ開通シタト聞イテ自動車ヲ試乗スルコトニ議一決シタ。京都ヲ七時四十分発ノ汽車ニ乗ッテ大阪駅デ上野君ニ遭ヒ市電デ難波駅ヘト行ツタ。……急行電車が……出タ後ダ。……五六分待ッテ普通電車で大阪ヲ立ツタ。和歌山市マデ一時間五十分、動揺ノ激シイコトデハ有名ナ電車ダ。……和歌山市ヘ着クト十分程デモウ箕島行ノ汽車ガ出ル。急イデ切符ヲ買ヒ研究所ヘ電報ヲ打ッテ急イデ乗ル。新線デマッチ箱汽車デソノ速力ノ遅々タルコト驚クバカリダ。ソノ上乗客ハ過員デ立ッテイル人ガ多イ。……一時ニ一寸前箕島着。駅前デ自動車ノ切符ヲ買ヒ、……此ノ自動車タリヤ

道幅ノ狭イコト驚クバカリ、ソレニ曲リ甚ダシク山ヲ越エ車内ノ動揺タリヤ言ハン方ナシダ、途中湯浅、御坊、印南、南部ヲ経過、以テ要スル時間四時間半... 午後五時半田辺着、研究所ノ入神丸ヲ以テ迎ヘラレ船長サン機関長サン小使兼賄夫サンノ出迎ヲ受テ田辺海岸ノ入神丸ニ乗船ス、.... 約一時間ニシテ研究所南側ノ入江ニ碇泊、渡船ニテ上陸、赤塚、東両先生ノ御出迎ヲ受ケテ寄宿舎ニ入ル。」(研究所日誌記事抜粋)

3月17日 春季臨海実習開始、23日まで、赤塚孝三助教授ほか指導〔註、23日までと記されているが、30日に実習終了の記事があり、別の実習が継続して実施された模様〕

3月20日 「夜赤塚助教授、東講師、機関長、西村、岩田、上野、銀公総勢七人、瀬戸の神社内に出来た小屋掛けの○天芝居を見に行く。」(研究所日誌記事抜粋)

3月24日 「今日は愈々帰る日だと三氏喜ぶ、十一時まで実験し十時半頃食事をなす、.... 網知らずにあった入神丸を江津良にまはして、ここまで歩いて行く、.... 真暗になって入神丸帰航す、.... 新城新理学科部長が川村、郡場両教授と共に初視察の為来所さる客だったので.... 然るに自動車(箕島田辺間)二回到着するも人なし、せん方なく帰航せるなりと。」

(研究所日誌記事抜粋)

3月25日 「午前中 plankton の実験、九時頃此の海岸に出て海面の暗紫赤色となる程集められた plankton を採集す。」(研究所日誌記事抜粋)

3月30日 「予定の如く一週間の実習が終ったので、10 時頃舎を出発、白浜館に行き田辺より一時五十分大阪行急行に上船、帰洛の途に着きたり。」(研究所日誌記事抜粋)

#### ◆参考資料

『京都大学瀬戸臨海研究所』(駒井卓、動物学雑誌、35(416)、1923)

『瀬戸臨海研究所七月の記事』(井狩二郎、動物学雑誌、35(417/422)、1923)

#### ◆参考記事

◇4月、天津臨湖実験所を医学部から理学部に移管

◇?、駒井卓助教授(動物学教室)、米英独留学渡航

◇12月、教授新城新蔵(宇宙物理学)理学部長に叙任

◇4月、白良濱の砂の積み出し禁止

◇9月1日、関東大震災発生

◇3月28日、紀勢西線、和歌山市驛―箕島驛間開通

## 1924 (大正 13) 年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 川村 多実二(兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三

助手 井狩 二郎

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動(日付順)

助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務、1924.05.05)

嘱託 笠原 照清(任用、1924.06)

#### ◆実験所記事(4月1日―3月31日)

5月5日 「当所詰ナリシ助教授赤塚孝三氏ハ京都へ転勤トナリ今日出発セラル。」(研究所日誌記事抜粋)

5月10日 「助手井狩二郎、瀬戸ヨリ当所官舎ニ入

ル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月16日「十時頃大暴風雨、急行船モ休航ノタメ  
学生諸君モ本日来場難カラント思ヒシニ、午後九時  
頃電報着、自動車ニテ午後十時田辺着トノコトニテ  
直チニ入神丸ヲ準備シテ田辺ニ出迎フ。」(研究所日  
誌記事抜粋)

「十時頃天保山ニテ晴山氏、東氏、赤塚氏ト高木、  
池上、中村ニ合シテ、紀州行ノ汽船出ヌ為何如ニセ  
ンカト暫ラク協議ヲナシシガ..... 陸路箕島迄行カ  
ントテ乗合自動車(タクシー)ヲ二台注文シテ難波  
ニ向フ..... 二時難波ヨリ和歌山行電車ニテ出発.....  
四時四十五分マッチ汽車ノ特別三等ニ乗リテ箕島ニ  
来ル..... 暫時協議ノ上田辺迄自動車二台買切りニシ  
テ行ク事ニシタ..... 買切りノ時高価ト思ヒシモカ  
ル道路ヲ巧ニ快速力ニテ走ラスヲ見レバ無理ナラズ  
ト妙ナ所ニテ感心ス..... 十時二十分田辺ノ町ニ勢  
ヨク乗り込ミヤガテ海岸ニ着ス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月17日 臨海実習開始、30日まで、赤塚孝三助教  
授ほか指導「磯採集は午後の干潮時を利用して行は  
るることになって、吾々新来者は研究所前の磯辺を  
ぶらついて歩く..... 午後一同磯採集に出かける。  
研究所裏から十町近くも歩いて熱心に従事する。」  
(研究所日誌記事抜粋)

「午前七時アポロタンク底部亀裂ヲ生ズ、ゴム板ニ  
テ応急処置ヲナス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月18日「プランクトン当番 小林 北上、八時ヨ  
リ正午マデ Plankton ヲ見ル..... 一時過ぎ頃 岩田、  
小林、近藤、北上ノ四人湯崎ニ行キ、僕ハ今日見エ  
タ筒井君ト先発ノ連中ニ湯崎デ追ヒツイタ、昨年ハ  
湯崎カラ研究所マデ重イバスケットヲサゲテ歩イ  
テ来タガ、ソノ苦シサモ今日ニナツテハ忘レテイ  
テモット近イト思ツテイタノニ案外遠ク思ヘタ.....  
筒井君ハ昨夜網不知カラ自動車デ白浜館ニ来テ一  
泊セル由。」(研究所日誌記事抜粋)

7月21日 第二回中学教員臨海講習会開催、30日ま

で「プランクトンの採集は昨日来た講習生連中にま  
かせて皆朝ねする。午前中例によって顕微鏡のぞき。  
十時—十二時の海藻はミルとアワサ..... 六時過ぎ  
から、井田、岩田両氏引率の下に、北上、近藤、小  
林、筒井の四人が湯崎へ出かけて行く..... 湯崎で  
買物して引き返す。白浜のカフェーで、例によって  
ビールをあふる..... アルコールの勢で皆元気に引  
きかへす..... 坂道では井田君が一番に悲鳴をあげ  
る。一同マムシにもかまれずに無事帰った。十時ご  
ろ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月22日「朝七時頃ウツラウツラトシテイルト外  
海洋採集ヲシマスカラ起キテ下サイト云ハルル声ヲ  
聞イテ睡イナガラ飛び起キテミルト..... サテ八時過  
愈々準備整食事ノ用意モシテ出発スル..... 青ク晴レ  
タ空ノ下風モナキ静カナ海ヲ入神丸ハ円月島ヲ廻ッ  
テ鹿島ニ向ッテ進ム..... 波上ニかつをのえばし所々  
ニ浮クヲ見ル、又 plankton ノ多ク集リダダヨフヲ見  
ル、故ニ暫ラク之ヲ採集シテ瓶ニ入レル..... ヤガテ  
九時過鹿島ニ着、炊事係ノ三人〔註、雇用シタ女性〕  
ヲ下シテ外洋ニ向ッテ進ム..... 可ナリ沖ニ出テヨリ  
ドレッジヲ引ク、船速ヲ弛メテ進ム、ヤガテ北ニ日  
ノ岬、南ニ遙カ岬ヲ見、西北ニ四国ノ地ヲカスカニ  
眺メルアタリ迄出タリ..... ヤガテ dredge ヲ引キ上  
グ、講師学生講習生一同カヲコメテ引キ上ゲ可ナリ疲  
レナガラカカル物ヲ楽シミニ引キ上ゲタガ取レシモ  
ノハ何タゾ大キナ網ノ底ノ方ニ僅カ五六ノ小サイ物  
シカ入ッテイナイ..... 一同疲レテ各所ニ引キ上ゲテ  
休ム、船ハ首ヲカヘテ東鹿島ノ方ニ向ッテカヘリ始  
メタ..... 鹿島ニ着ク迄ニ一度珊瑚網ヲ引ク、取レシ  
モノハ海まつノミ、十一時過鹿島着..... 六時頃研究  
所ニカヘリ浴後食事シテ休ム。」(研究所日誌記事抜粋)

7月23日「午前十時まで plankton、それから井  
狩氏の藻類に就いての講義、無性生殖までよりゆか  
なかった。後は来年になさるさうな..... 元来井狩  
先生の講義振りに至って謹直、それに今日はその謹厳

振りの中に濃厚な部分があったのだからたまらない。 .... 午後三時頃から井田、菅原、岩田、筒井、中村、高木、小林、近藤、北上の九名で田辺の町へ散歩に出かける。湯崎通ひの小蒸気を研究所前まで着けさせて若船員に漕いでもらっている。」(研究所日誌記事抜粋)

7月29日 井狩二郎助手、北樺太へ研究旅行に出発、  
9月23日まで

「午前中例によって Plankton を見る。 .... 午後二時頃より土田、菅原、小林、近藤の四氏、研究所前より瀬戸まで遠泳を決行。潮加減よろしく無事成功する。 .... 夕食後、東先生、近藤、中村、小林、筒井、高木、北上等一行は菅原氏に漕いでもらって瀬戸ゆき、白浜で汀に座りこんで一時間近くも話した。それから例によって .... 白浜食堂に入って飲食する。」(研究所日誌記事抜粋)

7月30日「25日講習員藤井氏研究所付近ニテウキイソギンチャクノ一種ヲ採集セル事ト30日講習員鳳瓦氏島島ニテ *Cavernularia*<sup>(26)</sup>ヲ発見セシ事ハ特記ニ与スベシ。」(研究所日誌記事抜粋)

「講習、学生実習本日ヲ以テ終ル。夜寄宿舍ヨリ茶菓ヲ出ス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月31日「午前七時学生6名、土田氏、講習員11名入神丸ニテ和歌ノ浦ニ向ッテ出発ス。」(研究所日誌記事抜粋)

8月1日「入神丸和歌ノ浦ヨリ午前十一時無事帰ス。」(研究所日誌記事抜粋)

8月2日「先月ノ強風ニ破レシ水槽室並ニ研究室ノ硝子4枚購入。」(研究所日誌記事抜粋)

8月13日「午前三時30分強震有り連イテ二三震動ス。同十時頃三回連続震動ス。被害ナシ。標本室ノ標本管2,3本破レシノミ。」(研究所日誌記事抜粋)

9月5日「七馬力電動機設置許可書下附サル。直ニ落成届出ス。」(研究所日誌記事抜粋) [和歌山県知事より総長宛8月27日付文書(第1171号)、合

わせて取扱主任者真鍋繁次郎の許可文書あり]

9月26日 牧野富太郎氏来所、島島などで採集

10月14日 黒潮プランクトン採集、ドレッジのため潮岬まで入神丸にて出航、15日まで、串本袋港泊

3月16日「(午後二時半天保山発琉球丸) 午後一時半天保山集合。 .... 午後十時半田辺港に到着。研究所からは早くも井狩氏が入神丸で御出迎。 .... 先づ恙なく一同茶の間に寛いだのは午後十二時。」(研究所日誌記事抜粋)

3月17日 春季臨海実習開始、23日まで、赤塚孝三助教授ほか指導「起床早々 plankton ノ実習ヲヤリ初メタ。道具ノ整理等ヲシタ後デ10時頃カラ顕微鏡ヲノゾキダシタ。 .... 夕食後植物科ノ者達ハ山ヲ越ヘテ湯崎ノ温泉ニ行ッタ。 .... 温泉ノ湯ハ余リアツクナカッタ。温ッタ身体ヲオーバーニ包ミ研究所ノ提灯ヲサゲテ、ヤミノ路ヲ帰ル時、静カニ後カラ吹ク風ガ心地良ク感ジラレタ。」(研究所日誌記事抜粋)

3月18日「午後ハ *Haliotis*<sup>(26)</sup>ト *Mitella*<sup>(27)</sup>トノ比較解剖。」(研究所日誌記事抜粋)

3月19日「午後ハエボシガヒ、カメノテ、フヂツボ実験比較解剖で終る。」(研究所日誌記事抜粋)

3月20日「午後ナマコの解剖。」(研究所日誌記事抜粋)

3月21日「相変ラズ午前中ハプランクトン。午後ハ一時半ヨリ富田ノ浜ニ曳網ヲ見ニ行ク。天気晴朗ナレド波高ク十八トンノ入神丸木ノ葉ノ如クユレル。千畳敷ノ沖殊ニ物凄シ。西富田ニ上陸シー里ノ山路ヲ越ユ。 .... 富田ノ浜ニ着キテ見レバ既ニ網揚ゲ終リタル後ナリ。」(研究所日誌記事抜粋)

3月22日「午後水クラゲの解剖をやる。」(研究所日誌記事抜粋)

3月24日「本日出発する筈の瀬戸内海採集旅行は昨日午後来風なけれど浪高くして出発し難き故に明日にのばして本日は一日の休養をとる。 .... 昼食すまして後晴山氏、 .... 四人白浜にテニスをなしに



行く。高木、.... 加藤、の連中は北側の海辺より網不知の方に海辺を取って採集方々歩いて行く。.... 船待合所にて暫らく休んで白浜の方に出でんとしたが丁度入神丸が旅行準備に来ていたのでそれに乗って研究所にかへる。」(研究所日誌記事抜粋)

3月25日 赤塚孝三助教授他17名、入神丸で瀬戸内海へ採集航海に出航(4月6日まで)「本日は愈瀬戸内海採集の途に出発する。皆朝三時に起き出でて支度して船に乗り込む。旅程の予定は次の様である。

第一日 三月二五日 研究所—和歌山ヲ経テ—福良

第二日 三月二六日 福良—小豆島坂手

第三日 三月二七日 坂手—高松

第四日 三月二八日 高松—多度津

第五日 三月二九日 多度津—波止浜

第六日 三月三十日 波止浜—興居島

第七日 三月三十一日 興居島—宮島

帰路

第八日 四月一日 宮島—広島県上蒲刈

第九日 四月二日 上蒲刈—鞆

第十日 四月三日 鞆—児島湾

第十一日 四月四日 児島湾—播州相生

第十二日 四月五日 相生—大阪

第十三日 四月六日 大阪—研究所

井狩先生を始めとして皆々に送られて東天正に白まんとする頃六時二十分前(五時四十分)白波を蹴って瀬戸の入江より万歳を唱して勇ましく出発す。.... 道中平穏和歌ノ浦に十一時半につき、中村氏、武藤氏、晴山氏上陸して帰郷の途に向ふ。午後二時頃沼島を行手のすぐ目前にみうける様になった頃急劇な暴風に襲はれて船動揺す。四十分許西に向ふて進まんとせしも少しも進まざれば遂に船首を北に向けて洲本に行くことに予定変更す。.... 入港する前にvertical netにてplanktonの採集す。午後六時洲本港に入港。.... 尋ねて料理屋兼宿屋なる〇といふ旅館に行く.... 因に採集旅行に加はりし

者、赤塚先生、土屋先生、菅原氏、小清水氏、勝藤氏、加藤氏、高木氏、近藤氏、筒井氏、北上氏、岩田氏、小林氏、の十二名と船長ら五名一行十七名。」(研究所日誌記事抜粋)

3月26日 「早朝(六時過)洲本を発して.... 大毛島の西側の入江に船をつける(11時).... 海辺に下りて採集.... 午後3時出発.... 坂手港沖にて採集(vertical netで).... 午後六時二十分坂手町手前の村落(7, 8, 軒あり)に上陸」(研究所日誌記事抜粋)

3月27日 「朝八時出発。赤塚先生、土屋先生の二人は細雨の中を近くの島に採集.... それよりdredgeを二回引く.... 十二時過川村先生の高松棧橋迄の迎えをうけて上陸す.... 夕食をすまして宿に至る。越中屋.... これより宮嶋辺迄共に川村先生も行かる由」(研究所日誌記事抜粋)

3月28日 「八時二十分高松発.... 十一時頃多度津沖に至る。丸亀沖にて一度dredgeを引く.... 先づ栗島に至る。而して栗島航海学校を参観.... 二時多度津にひきかへして着た。.... 花菱旅館.... (附加) 朝岩田氏先日より風邪の気味。.... 高松宇野連絡船にて帰郷」(研究所日誌記事抜粋)

3月29日 「多度津を細雨の中に出る。.... 風雨強ければ燈灘波あらからんとて糸崎の方に回る。.... 三津濱迄行けそうもないから大崎上島の木ノ江港に着く、午後四時。.... 木ノ江ホテル.... 海辺にて一寸採りしもの」(研究所日誌記事抜粋)

3月30日 「六時過起床。八時出発。.... 波にゆられゆられて一時頃三津濱に着.... 港のすぐ側の新しいがしかし小さい宿屋」(研究所日誌記事抜粋)

3月31日 「朝六時半三津濱を出発、興居島にて暫時採集.... その西南の地点にてdredge.... 午後三時過宮嶋の東南に来たる、そこにてdredge.... 五時頃愈々宮嶋の鳥居の前に望む.... 本日学生の発起にて船員の慰安会を催さんと思ひしかつ船より皆上陸する事出来得ねば学生一人前一円宛出費して船

員に与ふ、上陸して堂々岩惣に乗りこむ、今日は泊り丈でなく宿にて食事とする為威勢がいい。」(研究所日誌記事抜粋)

#### ◆参考記事

◇3月(?)、駒井卓助教授(動物学教室)、米英独留学を終えて帰国、教授昇任、動物学第1講座担当

## 1925(大正14)年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 川村 多実二(兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務)

助手 井狩 二郎

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

[?機関士 古家 栄七]

[?船員 正木 儀一郎]

◇年度内異動(日付順)

幹事 川村 多実二(退任、1925.07)

幹事 駒井 卓(動物学教室教授)(就任、1925.07、第2代)

嘱託 笠原 照清(退職、?)

#### ◆実験所記事(4月1日-3月31日)

4月1日 「九時宮嶋を出発.... 音戸の瀬戸を通る  
[註. 音戸の船唄の一節が記してある!] .... 大崎下島に来たりて鯛の養殖場を見る.... 午後六時15分糸崎の港に着、驛の風月旅館.... 川村先生今夜八時十五分の汽車にて艀に来らる.... 一行は減じて七人」(研究所日誌記事抜粋)

4月2日 「糸崎の港を出て七時四十分尾道の狭海路にさしかかる.... 伏兎ノ瀬戸.... を出た所にて dredge.... 艀の港に十一時着、川村先生の迎ひ.... 走島にて採集.... 川村先生は本日四時で御かへり.... 走島

沖にて二回 dredge.... それより後二回3時10分と4時に dredge を走島の北.... 4時半頃艀にかへり仙酔島の仙酔亭.... 一行は減じて六人」(研究所日誌記事抜粋)

4月3日 「八時出発.... 水島灘の静かな所にて.... dredge.... 7尋の深さ Time 10時四十分.... 小豆島の西沖(ヤヤ北)にて一回 dredge.... 午後四時過牛窓に着.... この町第一の宿」(研究所日誌記事抜粋)  
4月4日 「朝八時牛窓を出発.... 10時半相生湾に着 dredge.... 11時相生に着、昼食して後すぐ宿に行きて半日休養」(研究所日誌記事抜粋)

4月5日 「六時相生港を出発.... 二時前には旅の終りの大阪につくのだ.... 二週間に渡る採集旅行終り」(研究所日誌記事抜粋)

4月6日 赤塚孝三助教授他、入神丸での瀬戸内海採集航海から研究所帰着

7月16日 「厚門丸にて大阪天保山出航.... 午後十時過ぎ田辺に到着直ちに迎ひの入神丸に移乗す、臨海実験所に到着せし時は午後十一時半」(研究所日誌記事抜粋)

7月17日 夏季臨海実習開始、30日まで、赤塚孝三助教授ほか指導

7月17日 「起床は午前7時頃、午前中 Plankton の実習、午後は Algen<sup>(28)</sup> (Cladophora<sup>(29)</sup>) の実験、午後三時半頃終了。」(研究所日誌記事抜粋)

7月22日 「島島採集ノ日デアル」(研究所日誌記事抜粋)

7月29日 「朝 Plankton 例ノ通り、田辺ヨリ写真師来ル、コレハ駒井先生ガ當臨海研究所ヲ歐文ニテ

世ニ紹介セラレルタメ、ソレニ必要ナノデアル。裏ノ山ニ登ッテ俯瞰シタ所ヲトッタリシタ。後各建物及室内ヲトル。実験室デ我々ガヒザラガヒヲツツイテアル所ヲ写シタ。黑板ニハ晴山先生ノ文字デ Chalk ノ色 鮮ヤカニ “*Liolophura japonica*<sup>(23)</sup> Lischke” トカカレ、上ニ掛図ヲ掲ゲタ。Vertical plankton net ヲ鯉ノ吹キナガシヨロシクノ態デ天井カラブラ下ゲタ」(研究所日誌記事抜粋)

7月30日 横屋猷氏(東京帝国大学農)来所

7月31日 学生解散、講習生来場

8月1日 第3回中学教員臨海講習会開催、7日まで「午後三時半アポロポンプ、タンクノ底部破裂シ給水不能トナル。」(研究所日誌記事抜粋)

3月24日 「浮橋丸ニテ網不知着午後五時半、入神丸ニテ迎ヘラレ六時四十分寄宿舎ニ到着。」(研究所日誌記事抜粋)

3月25日 春季臨海実習開始、30日まで、駒井卓教授ほか指導「西側ノ一人ヅツ区劃サレタル実験室ニ集合、席ヲ定メ Plankton 検開始。..... 十時頃ヨリ動物科ハミヅクラゲ解剖。..... 植物科ハ井狩氏ヨリ海藻検鏡アリ。..... 食堂ニ示サレタル時間表下ノ如シ。

7. 30 朝食

8. 30 実習開始

12. 30 昼食

1. 30 実習開始

4. 30 同 終了

6. 00 夕食」(研究所日誌記事抜粋)

3月26日 「Plankton」例ノ如シ。十時頃ヨリ動物

科ハカツヲノエボシ (*Physalia*<sup>(20)</sup>) ノ貯蔵セラレタル標本ニツキ観察ス。本日瀬戸小学校終了日ナリシタメカ、儀公ノ友達沢山来リテテニスヲナシヲレリ。昼食後、山口、入来、森本、徳永氏テニスニ興ゼラル。」(研究所日誌記事抜粋)

3月28日 「晩湯崎行キヲ思ヒ立ツ。..... たうしまニテ機関士ノ栄サン船頭、儀公モ乗ル。皆正服ニティカメシ。駒井先生ノ御注文ニヨリ白濱ニツケントス。時ニウネリ大キク船大イニユラグ。..... 漸次浸水シ..... 船半ノ沈没ス。..... 遂ニヤット白濱ニツキシ時ニハ生キタル心持ハジメテ歸ル。」(研究所日誌記事抜粋)

3月29日 「入神丸ニテ四双島ニ採集ニユク。風ナケレドモ大ナルウネリアリ。」(研究所日誌記事抜粋)

3月31日 「朝食シテ出発セントス。コレヨリ先、入神丸ヲ北浦ニ廻航センメンタメ船員乗込ミテ機関ヲ動カサントス。ソノ時機関士古家栄七君ハ Engine ニテ名誉ノ負傷シ(但シ右第四指深サ骨膜ニ達スル縦裂傷ヲ負ヒ) 鮮血迸リ、応急手当ニ暇ドル。..... 網不知着。汽船ヲ待ツ。七時二五分浮橋丸ニ乗込ミ出発。..... 北浦ニカヘリ見送り人ヲカヘシ、入神丸ハ網不知ニ廻航碇泊。..... 居残者ハヤハリ実験ヲナシ、午後磯採集ニユク。」(研究所日誌記事抜粋)

#### ◆参考記事

◇4月(?)、駒井卓助教授、教授昇任、動物学第1講座担当

◇12月、教授小川琢治(地質学鉱物学)理学部長に叙任

## 1926 (大正 15) 年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 駒井 卓(兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務)

助手 井狩 二郎

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動（日付順）

なし

#### ◆実験所記事（4月1日－3月31日）

7月5日 「京都駅八時十二分発。.... 和歌浦マデ電車。ココデ午後一時発ト称シテ時半ニ出発シタ大阪商船ノ浮橋丸ニ覚悟ヲキメテ乗り込み。.... 浮橋丸ガ煙雨ノケブル網不知ノ沖ニツイタノハ六時近ク。井狩氏ガ入神丸デオ出迎ヒ。」（研究所日誌記事抜粋）

7月6日 臨海実習開始、19日まで、赤塚孝三助教授ほか指導

7月10日 「今日、実験所構内に於ける簡単なる電話装置を勧めて商人一人来れり。」（研究所日誌記事抜粋）

7月11日 「午後は総出で磯採集へと吾が入神丸は神島へと向ふ。.... 採集終了後.... の諸氏は入神丸にて田辺町に向ふ。.... 四時半長途の大航海を無事終りて研究所着。.... 夕食後福井市川両君は湯崎温泉に傳馬にて行く。」（研究所日誌記事抜粋）

7月13日 「ソヤケドモ実習ダシキバラントイカント思ッテキバリマシタガサツパリ珍シイモノガ見ツカリマヘンデシタ。悲観シテキマス赤塚先生ガキヤハッテ「今日ハ珍シイモノガ居ナイカラ解剖ノ方ヲヤリタマヘ」ト云ハハッタ.... 午後ボートニッテ実験所ノスズ向ニアル高島ニ磯採集ニイキマシタ.... 夜電氣ガキエテ僅カノローソクノ火ヲタヨリニ蚊ニ食ハレナガラ日誌ヲツケルトハ大変シンドイデス。」（研究所日誌記事抜粋）

7月15日 「本日は外洋採集、磯採集の日なり。....

千畳岩を過ぎる頃波益々高し。瀬戸崎西南沖にてドレッヂを曳く。.... 番所崎沖に於ては曳鉤を下して曳く。田辺湾内に入りて Vertical net を下す。これを以て午前中の外洋採集終る。実験所の南岸に着せるは午前十一時半。“とうしま”に乗りうつりて后駒井先生曰く“外洋採集は商売にはなりません、船酔を経験する位のものでしょうか。”.... 午後の磯採集は島島。」（研究所日誌記事抜粋）

7月16日 「実験後、赤塚先生ニ色々ノ御話ヲ承ル。和歌山県ハ是ノ実験所ノ役立ノタメニ五万円ノ金ヲ出ス。其レハ主トシテ本ニ使ハレシ由、而カモ其ノ内二万円ホドノ本ハ京都ノ大学ニ持ッテカヘリテキル由。又、瀬戸実験所ノ経費中ヨリ理学部ノ動物 1500 円植物 1500 円ヲ使用セル由。」（研究所日誌記事抜粋）

7月21日 第4回中学教員臨海講習会開催、30日まで

8月16日 荒木寅三郎総長、随員1名来所

9月17日 「低気圧 734.5 ミリ中心通過シ<sup>(81)</sup>寄宿舎瓦他破損吹飛ブ。直ニ営繕課長、駒井教授ニ打電指揮ヲ仰グ。」（研究所日誌記事抜粋）

3月28日 「京都駅に集るもの.... 八時十二分発で大阪へ。.... 和歌浦で.... 乗船したのが名もゆかしき浮橋丸と云ふ怪しい船。.... 五時半網不知につく。入神丸で井狩さん、例の船長と機関長と新顔の水夫長に迎へられて、研究所寄宿に来る。」（研究所日誌記事抜粋）

3月29日 臨海実習開始、4月4日まで、赤塚孝三助教授ほか指導

#### ◆参考記事

◇12月、教授和田健雄（数学）理学部長に叙任

## 1927 (昭和2) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 駒井 卓 (兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三 (動物学教室勤務)

助手 井狩 二郎

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動 (日付順)

なし

### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

4月1日 稲葉傳三郎氏 (東北帝国大学) 来所

4月5日 「大阪に向ふ ……一同を網不知まで送る、一時開纜の巡行船の棧橋を離れるまで真鍋氏計営の水族館を参観。」(研究所日誌記事抜粋) [註. 東白浜水族館として少なくとも1937年頃まで存続、宮崎伊佐朗、『ふるさと白浜』、1951、「夏を送る」参照]

7月3日 実習学生来所「赤塚助教授、晴山講師一行九名、午後十時急航船ニテ来田、入神丸田辺ニ出迎フ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月4日 臨海実習開始、17日まで、赤塚孝三助教授ほか指導

8月11日 湯浅八郎教授 (農学部) 来所

### ◆参考資料

『The Seto Marine Biological Laboratory of the Kyoto Imperial University. Its equipment and activities, with remarks on the fauna and flora of the environs』(Komai, T., Akatsuka, K. & Ikari, J., Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ., Ser. B, 3 (3), 1927)

『ふるさと白浜』(宮崎伊佐朗、白浜文化倶楽部、5+4+328 頁、2 図版、1951)

### ◆参考記事

◇8月14日、紀勢西線湯浅驛まで開通

## 1928 (昭和3) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 駒井 卓 (兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三 (動物学教室勤務)

助手 井狩 二郎

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動 (日付順)

なし

### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

4月1日 春季臨海実習開始、8日まで、駒井卓教授ほか指導

7月5日 「午後二時半那智丸ニテ大阪出帆一行十一人、全十時文里港着、研究所入神丸ニ迎ヘラレテ研究所北側ノ浜ニ着シ十一時研究所へ落着ク。」(研究所日誌記事抜粋)

7月6日 夏季臨海実習開始、19日まで、赤塚孝三

助教授ほか指導「午前八時過実験開始. 午前中プランクトン検鏡. 午後蛸ノ腎管ニ寄生セル *Dicyema*<sup>(4)</sup> ノ検鏡及プレパラート作製. 当番ノ日割ヲ定ム.」(研究所日誌記事抜粋)

7月9日「午后沖採集に出る筈なりしも機船入神丸 Engine 破損のため、遺憾ながらこの壮挙を放棄....」(研究所日誌記事抜粋)

7月10日「午後一時ヨリ全員入神丸ニテ外洋採集ニ出四時帰舎.」(研究所日誌記事抜粋)

7月14日「昨日発見セシ巨大ナ足跡ノ主人公ナル海亀ノ卵寄宿舍ノ前ノ海岸ヨリ採集ス. ピンポンノ球ト同大同形ノ卵、其ノ数百数十個ニ及ブ.」(研究所日誌記事抜粋)

7月15日「四時半起床、モーター船ヲ動かシテ網不知ヘプランクトン採集ニ出カケル. .... 船人サン操縦ヲ誤リ漁船ニ衝突. .... 塔島、高島ヲ廻リ帰着シタノハ七時過ぎ、八時ヨリプランクトン検鏡. 別ニ珍シイモノモナイ.」

7月17日「午前中ハ plankton ヲヤルノガ例デアルガ今日ハウニノ発生ヲ見テキル人ガ多クテ

plankton ヲヤツテキル人ガ暁ノ星ノ如クデアツタ.」(研究所日誌記事抜粋)

7月18日「十一時頃小雨ヲ冒シテ全員大島ヘ磯採集ニ出掛ケル. 途中雨止ミ曇レル空ハ陽光ヲサヘギツテ却ツテアツラヘ向ノ天候トナツタ. 大島ノ岩下デ海底ヲ箱眼鏡デノゾイテソノ美シサニ驚ク. .... 午後採集物ニ付キ研究. .... 夜瀧氏ヲワゾラハシテ採集シタ貝類ノ名前ヲ教ヘテ貰フ.」(研究所日誌記事抜粋)

7月22日 第5回中学教員臨海講習会開催、31日まで

#### ◆参考資料

『京都帝国大学理学部附属瀬戸臨海研究所』(駒井卓、理科教育、11(6)、1928)

#### ◆参考記事

◇3月、理学部教授新城新蔵が総長に就任

◇12月、教授石野又吉(物理学)理学部長に叙任

◇4月20日、紀勢西線、由良驛まで開通

## 1929(昭和4)年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 駒井 卓(兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務)

助手 井狩 二郎

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動(日付順)

助手 滝 巖(任用、1929.04.30)

#### ◆実験所記事(4月1日—3月31日)

6月1日 天皇行幸来所「この日、陛下には田辺湾に仮泊せる御召艦より艇にて御移乗あり、瀬戸鉛山村網不知に御上陸あらせられ、御徒歩にて新設の海岸道路によりて午前十時研究所に着御あり、新城総長石野理学部長等門内に奉迎し、総長より s 研究所<sup>(2)</sup>に関する一般的事項を奏上の後、別室にて理学部職員六名の進講を御聴取あらせられた。それより所内一巡あり、実習室内に陳列せる動物標本類、和歌山県物産並に、水槽室に飼育せる諸水産動物を御覧の後、便殿に戻らせられた。午後は研究所の浜より小舟を

召され、研究所主任駒井卓教授等陪乗し、瀬戸鉛山村民二十余名と共に、付近の海産動物の御採集に奉侍した。尚ほ大学より紀伊沿海産貝類一揃と田辺付近産化石標本一揃とを献上御嘉納を賜うた。又翌六月二日三日の両日は駒井教授、赤塚助教授等は串本付近まで御随行して、同地付近の御採集にも奉陪した。」(京都帝国大学、『京都帝国大学史』、1943) [註、理学部職員 6 名とは、石川成章講師・駒井卓教授・黒田徳米助手・赤塚孝三助教授・井狩二郎助手・小松茂;御召艦<sup>おめしかん</sup>は長門、駒井卓教授らは串本まで同乗]

◇井狩二郎助手、病により入院療養(近江八幡ヴォーリスサナトリウム)

#### ◆実験所資料

『行幸写真真集』、京都帝国大学編、実験所所蔵

#### ◆参考資料

『京都帝国大学理学部瀬戸臨海研究所』(駒井卓、京都帝国大学理学部瀬戸臨海研究所、1929)

『和歌山縣行幸記録』(和歌山県、4+8+240 頁、15 図版、1929)

『串本町行幸謹記』(和歌山県西牟婁郡串本町役場、2+13+297 頁、18 図版、3 付図、1931) [駒井卓、「御採集に陪して」、坂口総一郎、「無上の光栄を録して」、昭和四年六月四日付官報「宮廷録事」、などが所載されている]

#### ◆参考記事

◇12 月 18 日、動物学教室に動物学第 3 講座増設

◇1 月、岡田要講師、教授に昇任、動物学第 3 講座担当

◇9 月 20 日、紀勢西線、御坊驛まで開通

## 1930 (昭和 5) 年度

#### ◆実験所職員

◇4 月 1 日現在在職者

幹事 駒井 卓 (兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三 (動物学教室勤務)

助手 井狩 二郎

助手 滝 巖

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動 (日付順)

幹事 駒井 卓 (退任、1930.04.12)

幹事 岡田 要 (動物学教室教授) (就任、1930.04.13、第 3 代)

助手 井狩 二郎 (退職、1931.01.16)

助手 椎野 季雄 (任用、1931.01.31)

副手 杉野 久雄 (任用、1931.03.31)

#### ◆実験所記事 (4 月 1 日 - 3 月 31 日)

6 月 1 日 臨幸記念碑除幕式催行、水槽室一般公開開始「行幸 1 周年を記念して、構内に時の総長新城新蔵の撰になる碑文を刻した臨幸記念碑が建てられ、同時に実験所的水槽室に多少の修築を施して一般公開することとなった<sup>(83)</sup>。」(瀬戸臨海実験所、『瀬戸臨海実験所五十年史』、1972)

8 月 第 6 回中学教員臨海講習会開催

3 月 31 日 水族館観覧規程制定

#### ◆実験所資料

◇臨幸記念碑碑文の原書、実験所所蔵

#### ◆参考資料

『The Seto Marine Biological Laboratory of the Kyoto Imperial University. Its equipment and activities, with remarks on the fauna and flora of its environs. (A revised article)』(Komai, T. & Ikari, J., Rec. Oceanogr. Works in Japan, 1 (3), 1930)  
『瀬戸臨海研究所』(駒井卓、生物学叢書、改造社、

1930)

『田辺湾近海の生物』(駒井卓、和歌山県田辺町誌、1930)

#### ◆参考記事

◇12月、教授西内貞吉(数学)理学部長に叙任  
◇11月14日、紀勢西線、印南驛まで開通

## 1931(昭和6)年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者  
幹事 岡田 要(兼任、動物学教室教授)  
助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務)  
助手 滝 巖  
助手 椎野 季雄  
副手 杉野 久雄  
嘱託 笠原 照清  
雇員 雑賀 弥之助  
雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵  
◇年度内異動(日付順)  
なし

#### ◆実験所記事(4月1日—3月31日)

8月 第6回中学教員臨海講習会開催

#### ◆参考記事

◇4月17日付『紀伊新報』記事、「網不知の埋立来月から着工、西牟婁郡瀬戸鉛山村網不知区民から出願中の同村三軒家地先海面二万一千余坪埋立ては近く許可されることになったが、.... 工事期間は五ヶ年であるが大体本年中に護岸全部を完成する予定である。埋立箇所は網不知、芝田真珠養殖場のある西側一帯で、丸山島も買収し船揚場等も設けることになってゐる。」  
◇9月、満州事変  
◇9月21日、紀勢西線、南部驛まで開通

## 1932(昭和7)年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者  
幹事 岡田 要(兼任、動物学教室教授)  
助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務)  
助手 滝 巖  
助手 椎野 季雄

副手 杉野 久雄  
嘱託 笠原 照清  
雇員 雑賀 弥之助  
雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵  
◇年度内異動(日付順)



なし

? 宮下 義信

#### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

なし

#### ◆参考記事

◇3月、文学部教授小西重直が総長に就任

◇12月、教授川村多実二(動物学)理学部長に叙任

◇12月、財団法人日本学術振興会設立

◇11月8日、紀勢西線、紀伊田辺驛まで開通

## 1933 (昭和8) 年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 岡田 要(兼任、動物学教室教授)

助教授 赤塚 孝三(動物学教室勤務)

助手 滝 巖

助手 椎野 季雄

副手 杉野 久雄

嘱託 笠原 照清

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動(日付順)

助教授(広島文理科大学向島臨海実験所主任)

滝 巖(昇任転出、1933.07.10)

助教授 赤塚 孝三(退官、1933.09.30)

嘱託 弘 富士夫(任用、1934.01.31)

雇 徳岡 泰広(任用、1934.03.30)

講師 弘 富士夫(任用、1934.03.31)

副手 平林 清(任用、1934.03.31)

#### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

10月 李王[很] 殿下来所

12月11日 紀州白浜番所山遊園地榎本林作による  
構内土地道路使用承認、12月25日付岡田所長宛借  
用證、南面海岸延長43間幅員8尺、北面海岸松林  
の中延長44間幅員1間

#### ◆参考資料

◇経理部管財課に番所山遊園地道路使用承認の  
記録

#### ◆参考記事

◇6月、法学部教授山本美越乃が総長事務取扱

◇7月、理学部教授松井元興が総長に就任

◇赤塚孝三助教授は退官後、郷里津市へ転居

◇12月25日、紀勢西線、紀伊富田まで開通、白浜  
口および紀伊富田両驛開業

◇番所山遊園地開園?

## 1934 (昭和9) 年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 岡田 要(兼任、動物学教室教授)

助手 椎野 季雄

副手 杉野 久雄

副手 平林 清

講師 弘 富士夫  
嘱託 徳岡 泰広  
雇員 雑賀 弥之助  
雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵

◇年度内異動（日付順）

雇員 津田 伍蔵（任用、1934.06.01）  
嘱託 宮下 義信（任用、1935.01.31）

#### ◆実験所記事（4月1日－3月31日）

5月3日 「昨晚弘、平林両所員が帰ッテ来タノデ  
研究所ハ一時ニ五人ノ多人数トナリ活境ヲ呈ス。朝  
十時モーターヲ駆リ椿温泉ニ採集ニ行ク。同勢五名。  
瀬戸ト大シテ変リナイガ、「クモヒトデ」ガ矢鱈ニ  
多イノガ目ニ着ク。船長ノ欲シガッテイタ「ウメボ  
シ」ヲ港ノ南側ニテ多数発見。椿樓ノ温泉デー浴ビ  
スル。ココハ冷泉デ湧カスノデアルガ、透明デネチ  
ネチセズ、出テカラノ気持ガ非常ニイイ。浴場ノ明  
ルク立派ナコトモ緑湯ノ比ニ非ズ。」（研究所日誌記  
事抜粋）

5月14日 「本日ヨリ愈々標本ノ整理ヲスルコトニ  
始メル。 .... 今後五ヶ年計画デ田辺湾内ノ fauna ヲ  
シラベルニハ、先ヅ既存標本ニドンナモノガアルカ  
ヲシラベテカラデナイト出来ナイ。シカシ今残ッテ  
キル標本ノ中デモ完全ニ新シイ瓶ニ入レカヘテモ  
果シテ人ニ見セテモイイト思ハレル位立派ニ原態  
ヲ存シテキルモノガ果シテ幾何アルダラウカ。 ....  
半日貝類ノ整理ニ費シタガ録サモノハナサソウダ。  
今日ハ大キナ *Physalia*<sup>(30)</sup>ガ沢山トレタノデ水族館  
ニ入レル。」（研究所日誌記事抜粋）

5月16日 「午后徳岡ハ太刀谷へ試験板ノ調査ニ行  
キ、椎野、山内、弘ハ崎ノ湯附近ニ採集ニ行ク。 ....  
コノ付近デハ沢山 *Cucumalia*<sup>(34)</sup>ラシイ海鼠ガトレ  
ル。種名ハ不明。 .... 五時岡田教授、標本室新設ノ  
下検分ニ来所。」（研究所日誌記事抜粋）

5月17日 「アサ岡田先生浜辺ヲ散歩中 *Olindias*  
*formosa*<sup>(36)</sup>ノ radial canal<sup>(36)</sup>ガ三本シカナイモノヲ  
採ラレル。 .... 午後放置シテアッタ汚イ標本瓶ヤ実  
験皿ヤスライドグラス等ヲ洗ッタ所、実習室ノ右半  
分ヲ占メル程ノカサニナッタ。岡田先生ハココニ産  
スル高脚蟹ガ爪ノ長イ点等ドウモ三崎デトレルモ  
ノトハ違フ様ナ気ガスルノデ或ハ *Macrocheira*  
*Kaempferi*<sup>(37)</sup>トハ違フノデアラウト考ヘラレ、シラ  
ベラレタ。後日ノ発表ヲ待ツ。」（研究所日誌記事抜粋）

5月18日 「鉄道団体客ガ沢山来タノデウルサイ位。  
実際研究所トシテハ白浜ノ発展ハモウカルコトハ  
モウカッテモ研究上妨ゲトナッテ益ニハナラナイ。  
実ハソンナコトデ昨夜モ食堂デ研究所ノ勝浦又ハ  
潮岬移転ノ話ガデタ。若シコレガ実現スレバ日本第  
一ノ三階立ノ堂々タルモノヲ作ル計画ダ。」（研究所  
日誌記事抜粋）

5月19日 「*Alepes pacifica*<sup>(38)</sup>ノ二個体附着セルア  
カクラゲガ採レタ。」（研究所日誌記事抜粋）

5月23日 「門際ニ新シク掘ッタ井戸ヲ上ゲルタメ  
ノ tank ヲ作ル為人夫ヲシテ構内東北ノ官舎横ノ小  
高イ岡ノ上ヲ工事セシメテイタ所、円イ石ヲ一列ニ  
並ベタ古墳様ノモノガ現ハレタ。二十年前ニコレノ  
続キノ岡ヲ掘ッタ際ニモ古墳アラハレサビタ刀ヤ  
ヤヂリガデテキタ相デアルカラ、尚ソレ以上掘ッタ  
ラ何カ見ツカルカモ知レナイガ、大シタモノデモナ  
サソウナノデ止メテ失ッタ。本日田辺湾ニ戦艦「伊  
勢」ガ点呼ノ為入港シタノデ、朝船ヲ駆ッテ皆デ拝  
艦ニ行ク。 .... 昨夜寄宿舎ニトビコンデ死ンデキタ  
トイフイそひよヲ小使ガモッテキタ。兼ネテヨリ川  
村先生ヨリいそひよノ標本ヲ望ンデオラレタノデ  
早速腹ダケ出シテ塩ヲ中ニツメコミ京都ニ送ッタ。  
水槽中ニ入レタ Vertical ノ差ノ非常ニヨク現ハレテ  
キル試験板三枚ニ附着シテキル動物ノ個体数ヲシ  
ラベタ。0.4 m 沈下ノモノハ *Spirorbis*<sup>(39)</sup>最モ旺盛  
デちごけ附着セズ。4.8 m 沈下ノモノデハちごけ最

モ旺盛次ニ *Balanus*<sup>(40)</sup> 更ニ *Serpula*<sup>(41)</sup> デ *Spirorbis*<sup>(39)</sup> ハ数フルニ足ラズ、尚興味アルコトハ総テノ試験板ニオイトフデツボハ *Carina*<sup>(42)</sup> ガ上方ニ向イテキルコトデアル。」(研究所日誌記事抜粋)

5月26日「午后四時過ギカラ外ノ亀池ニイレテアルよしきりざめーこんじょうぶか又ハみづぶかトイフー 三匹ノ中最モ大キイノガ仔ヲ産ミ始メタ、全部デ六匹生シダガ、.... 仔ノ産出スル時ノ有様デ興味アルコトハ尾ノ方カラ先キニデルコトデ而モ仔ノ腹面ハ親ノ腹面ニアリ、即チ仔ハ仰向ケニナツテデル。」(研究所日誌記事抜粋)

5月28日 採集船にて紀南へ採集旅行、30日まで「午前5時30分臨海ヲ出発、一行は山内、平林、徳岡、弘、及雑賀船長ノ五名、五馬力ノ小発動機ニ投ジテ.... 鉛山附近ノ海面ニ鮫ガ群ヲナシテ海面ヲ跳リツツ泳イデユク景ヲ見ル、.... 伊勢崎附近ヨリ *Veella*<sup>(18)</sup>、*Physalia*<sup>(30)</sup> ノ多ク游泳セルヲ見ル、.... 11.30 潮岬沖一キロノ地点ニ於テ表層及深層ノ plankton ヲ採集シタガ何モイナイ様ダ、.... 午前12時カッチリ大島ノ南西岸岩間島ニ到着上陸、.... 昼食後採集、水ガ非常ニ透明デアル、ココノ fauna ノ瀬戸トカハツテキル様ニモ思ヘナイガタダソノ個体数ノ豊富ナル種類ニオイト趣キヲ異ニシテキルヲ見タ、.... 午後2時大島捕鯨所ニ到着、始メテ鯨ナルモノヲ見、.... 午後5時23分勝浦港ニ到着、浦島館ニ一泊。」(研究所日誌記事抜粋)

5月29日「勝浦港外ノ福井浦ニテ磯採集、カワツタノヲ採ツタ、.... 午後1.30 太地着、昼食ノ後太地水産専修学校ヲオトツレ標本室ヲ見セテ貰フ、次ニ朽木捕鯨会社ニ山本益太郎技師ヲ訪ヒ、鯨ノ網取リの話ヲ聞キ、鯨ノ胎児、及鯨ニ寄生スル蔓脚類ヤ端脚類ガトレタラ送ツテ貰フニ依頼スル、.... 7.27 大島港ニ到着、上陸、.... 田井善ニ一泊。」(研究所日誌記事抜粋)

5月30日「午前8時大島港ヲ出発、8.20 一行中

平林、弘、徳岡ノ三名ハ一行ニワカレ潮岬燈台ニ赴ク、.... 袋湾ニ赴キ一行ノ舟ノ帰ルヲ待ツ、.... 午前11時昼食後袋湾ノ西岸ニオイト磯採集ヲ小二時間バカリスル、.... 今迄採集シテキタドノ所ヨリモズット優レタ採集地デアル、.... 午後2時袋湾発、潮岬北西岸ノ一小港ニ船ヲ進ム、.... 何モ動物ハイナカッタガ、タダ瀬戸デ見ルコトノデキナイ海藻トハ思ヘナイ様ナ海藻ヲトル、.... 午後3時20分愈々ココニ出発、.... 8.20 ナツカシキ瀬戸ノ浜辺ニ到着。」(研究所日誌記事抜粋)

5月31日「勝浦デー一行ガ土地ノ熊野新報記者ニツカマッテ一寸話シタコトガソノ新聞ニダノヲ見タノデアラウ、今日ハ大阪朝日ヤ熊野太陽新聞ノ記者ガ記事ヲトリニキテ閉口サレタ。」(研究所日誌記事抜粋)

6月5日「内閣会計検査員五名来所、ドウカト思ツテキタ会計検査モ無事ニ楽ニ終ヘル、大学カラハ事務室ノ荒木氏ガ来所シタノミ。」(研究所日誌記事抜粋)

6月9日「一昨日里野デ青海亀ガ捕獲サレ、.... 午後船デ貰ヒニ行ク。」(研究所日誌記事抜粋)

6月10日「東郷元帥ノ国葬デ延期ニナツテキタ温泉祭ガ今日白浜デアル、.... 午後弘講師ノ下ニ川村理学部長ヨリ南洋行キハコノ十九日春日丸ニテ横浜ヲ出帆スルコトニ決定、直チニ帰学ノ様電報デ知ラセテキタ、.... 昨日トツタ亀ニツイテキタ *Platylepas hexastylus*<sup>(43)</sup> フ *shale*<sup>(44)</sup> ニイレテオイト所ガ penis ヲ長々ト隣接個体ニ伸バシ所謂 *begattung*<sup>(45)</sup> フヤラントシテキル状態ヲ判然ト見ル、長ラクコノ件ニツキテハ *Gruvel*<sup>(46)</sup> ガ記載シテキル所デハアルガ外ニ誰モ見タモノガナク疑ツテキタ所始メテ事実ナルコトヲ確カメ得タコトハ嬉シイ。」(研究所日誌記事抜粋)

6月11日「弘講師ハ學術振興会ヨリ南洋パラオ島ニオケルサンゴ礁研究ノ一行ニ加ハルコトニ決定

シ.... 京都ニ帰ル (正午). 日誌ハ当分平林ガ記入スルコトニスル.

6月12日 「一日ガカリデ生理実験室ヲ改造スルコトニシタ. 化学実験室ノ薬品戸棚ヲ生理実験室ニウツシ量、寝台ヲ特研ニ移シテ代リニ机一ケヲ入レル. .... 生理実験室ヲシテ海洋生物学研究及其他ノ準備室タラシム.」

6月13日 「船長、徳岡等トシバシノ晴天ヲ利用シ網不知ニ行ク. 養魚場ノゾガシテモラウ. 大数ノタイ、ハマチ等ガ群ヲナシ circular ニ運動スルノヲ見ル. .... plankton ノ採集ニ於テ定量的ニ適当ナ水ヲ取ルコトガ出来ナイノデ困ッテ居ル. pump ヲ用イルト鉄ヲ混入シ phosphate<sup>(47)</sup>ノ定量ニサシツカヘルシ単ニ表層ダケヲ取レバ全ク plankton ヲ見ズ. Meyer、Thienemann、Peck<sup>(48)</sup>等ノ簡単ナ採水瓶デモアレバヨイト思フ. .... 夜採水瓶ヲツクリ船長、サダヤん、徳岡等ト採水ニ行ク.」(研究所日誌記事抜粋)

6月16日 「ボートノクラッチハ再ビ破損セル由、手製デハトウテイ駄目デアロウ.」(研究所日誌記事抜粋)

6月17日 「海水中ノ磷酸塩微量定量ガ一時行キナヤンデ居タガ根気ヨク続ケル内ヤット今日定量可能ナルコトヲ見出ス. .... 山内氏ノ所湯川胃腸病院長来ル. 網不知ニ海洋生物ノ研究所ヲ立テル由 (目下起工中) 主トシテ応用方面ノ仕事ヲナストノコトナリ. 現在デハ船底塗料ノ研究ニ主力ヲソソグ由ナリ.」(研究所日誌記事抜粋)

6月18日 「水槽室ノタカアシガニ最后ノ一匹死ス.」(研究所日誌記事抜粋)

6月19日 弘富士夫講師、日本學術振興会第11小委員会委員を囑託され、パラオ熱帯生物研究所へ出向

6月22日 「大キイ水槽中ニ飼イタル小アジニ isopoda<sup>(49)</sup>ガ附着セルモノヲ取り標本トシテ取ッテ置ク (徳岡).」(研究所日誌記事抜粋)

6月23日 「山内、平林、徳岡、船長ト共ニたちが谷 (網不知) ニ行ク. 船長、小使ハ入神丸ノ手入レ

ニ、徳岡ハ固着生物ノ zahlung<sup>(50)</sup>ニ、平林ハ plankton 及採水、山内ハ研究所 (湯川氏) 敷地ノ実地見分ヲナス.」(研究所日誌記事抜粋)

6月25日 「コースニ木炭ヲ混ジテ蒸留スル能率ヨシ.」(研究所日誌記事抜粋)

6月30日 「椎野助手帰ル. アスヨリ夏季実習ヲ行フ由.」(研究所日誌記事抜粋)

7月1日 臨海実習開始、駒井卓教授ほか指導  
「病氣ノタメシバク日誌ヲ中止ス.」(研究所日誌記事抜粋)

7月21日 「猶先週ヨリ二年生ノ夏季実習初マリ岡田教授指導ノ下ニ....」(研究所日誌記事抜粋)

7月25日 「満月ニ近ヅキ海亀ノ跡多ク見ラレルニ至リタルタメ宿所中総動員シテ之ヲ三班ニ分チ亀ノ出現ヲ午後12時頃マデマデモツイニ上ラズ空シク引キ上ゲタリ.」(研究所日誌記事抜粋)

7月26日 「今日ヨリ29日迄灯火管制行ナハレ....」(研究所日誌記事抜粋)

7月29日 「船長ノ宅デ寄宿者総員コンパヲ開ク.」(研究所日誌記事抜粋)

7月30日 「連日ノ苦勞ヨウヤクムクイラレ午後11時頃番所ガ崎井戸ガ谷ニ於テ海亀ヲ発見ス.」(研究所日誌記事抜粋)

8月1日 「午后四時頃新任理学部長園氏来所視察セリ.」(研究所日誌記事抜粋)

8月9日 「亀絶ニ死ス. 嗚呼! 残ス所僅カニ三四.」(研究所日誌記事抜粋)

8月30日 「連日猛暑.... 三日前淡水用モーターニ故障ヲ生ジタルヲ手初メニ淡水用モーターニケ及ビ海水用 (水槽室) ノモーター共ニ破損シタリ. 水槽室ノ方ハ船長奮闘シ補助用エンジンヲ用イタルニ昨29日夕方ツイニシャフトヲレココニ万事キウシ水族館一週間休館ノヤムナキニ至ル. 故ニ本日ヨリ水槽室ハ無償開放セリ.」(研究所日誌記事抜粋)

9月22日 室戸台風により被災「昨日没トトモニ吹

キ募リシ東南風ハ更ニ雨ヲ交ヘテ本日午前3時-5時ニソノ暴威ノ頂点ニ達シ官舎ヲ揺リヲ吹き上げ眠ラシメズ。雨戸ノ隙ヨリ眺レバ松ノ大木ハ稲ノ如ク揺レ打寄ス浪ハ瀧ノ如キシブキヲ揚ゲテ防風林ヲ乗り越エ桃畑ニ達シ、実ニ寄宿舍玄関ニ迫ラントス。被害ノ甚大ナルヲ覺エ直ニ身身拵ラシテ大枝、小石ノ飛ブ中ヲ跳ビ出ス。先ヅ寄宿舍ニ至レバ玄関入口上部ノ窓ハ吹き落サレ.... 特研ハ窓ヲ、研究室ハ平林、第三ノ両室ノ窓硝子ヲ、水槽ハ窓ノ硝子障子及多数窓硝子ヲ失ヒ水槽ポンプ室ハソノ窓マデ浸水.... トタン葺キ納屋ハ一タマリモナク吹き倒サレ新設ノ井戸ポンプ室ハ一物モ残サズナギ拂ハレハルカ彼方ニソノ残骸ヲ曝ス。発動機船ハ雑賀氏宅ノ庭先マデ押ゲラレ“とうしま”ハソノ跡ヲトドメズ破毀サル。船長宅ノ横ヨリ亀プールニ至ル線及ビソノ附近ニハ一尺余ノ大“アコウ”“カサゴ”“イザ

リウオ”等種々磯魚ノ死骸壘々。.... 猶、御幸コンクリート道路ハ見ユル限り原形ヲ止メズ実ニ番所山ニ到ル海岸道路ナド全部跡方ヲ残サズ。.... 船長ト徳岡ノ観測ヲ総合スレバアネロイドハ午前3-5時ニハ716 mm、.... 参考ノタメ波浪ノ及ビシ地点ヲ図示スレバ〔図〕尚モーター当分使用不可能ノタメ水族館当分休館ノ外ナカルベシ。尤モ、道路ノ破損ト激浪ノタメ開館シテモ来ル人ノナキ事ハ明瞭ナリ。」(研究所日誌記事抜粋)

3月 修復工事により寄宿舍を学生宿舍と官舎に分割して移築

#### ◆参考記事

◇6月、教授園正造(数学)理学部長に叙任 ◇11月17日、天王寺・難波からの日曜日特急直通列車運転開始

## 1935 (昭和10) 年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 岡田 要(兼任、動物学教室教授)

助手 椎野 季雄

副手 杉野 久雄

講師 弘 富士夫

嘱託 平林 清

嘱託 徳岡 泰広

嘱託 宮下 義信

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動(日付順)

助教授 宮地 傳三郎(昇任転任、大津臨湖実験所

講師、1936.03.31)

#### ◆実験所記事(4月1日-3月31日)

6月 標本陳列室増設

7月1日 弘富士夫講師、パラオ熱帯生物研究所に於ける研究を終え、京都で採集物整理の後、帰任

7月2日 夏季臨海実習(前期学生臨海実習)開始、8日まで、駒井卓教授ほか指導「一昨日頃カラ京都ヲ主トシ近畿並ニ北九州一帯ニカケ大洪水トナリ、昨日ヨリ臨海実習開始ナル予定ナリシモ、阪和、省線不通ノタメ漸ク昨日京都ヲ駒井教授外五名ノ一回生ト共ニ立チ、昨日夕八地頃瀬戸着。.... 例ニヨツテ午前十時迄プランクトン検鏡。」(研究所日誌記事抜粋)

7月3日 「十一時頃昼食ヲスマシ、新造モーターボートニテ島島ニ採集ニ行ク。.... 駒井教授ノ提唱ニヨリ学生ニ実習期間ノ採集又ハ観察シタル種名ノ報告ヲナサシムルコトニセリ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月11日 中期学生実習開始、19日まで、岡田要教授ほか指導「本日ヨリ中期学生ノ実験形態学実習開始サル、.... *Stephanoscyphus*<sup>(11)</sup>ノ polyp<sup>(61)</sup>ヲ色々ノ長サニ切り離シ其ノ両端ニ於ケル再生ヲ観察セントスル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月12日「次ニ本実験最初ノ目的タル dissociated cellノ aggregationノ 実験<sup>(62)</sup>ヲ行フ、材料ハヤハリ *Stephanoscyphus*<sup>(11)</sup>デアル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月13日「*Hydroides*<sup>(63)</sup>ノ operculum<sup>(64)</sup>ニ於ケル compensatory regeneration<sup>(65)</sup>ノ 実験ヲ行フ、午後十一時頃水族館ノ浜ニあかうみがめ産卵中ヲ発見、.... 亀ノ動作見タママ記セバ次ノ如シ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月14日「*Phoronis australis*<sup>(66)</sup>ヲ 4・5 ツノ片ニ切り regeneration speed 及ビ head regeneration limitヲ知ラントス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月15日「手術動物ノ観察ヲ行フ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月16日「*Stephanoscyphus*<sup>(11)</sup>ノ polyp<sup>(61)</sup>再生シ始ム、.... *Phoronis australis*<sup>(66)</sup>ノ head 再生ス、.... むらさきうにノ発生実習ヲ行フ。」(研究所日誌記事抜粋)

7月19日「*Stephanoscyphus*<sup>(11)</sup>ヲ固定ス、以上ヲ以テ実験形態学実習ヲ打切ル。」(研究所日誌記事抜粋)

7月20日「昨晚ハ Summer house<sup>(67)</sup>ノ 学生ガ未完成ニモ拘ラズ来所シー泊ヲ乞フ故止ムナク三名ヲ泊ラス。」(研究所日誌記事抜粋)

7月23日「新造シタボート二隻、古イボート(不使用)、モーターボート、及ビ従来ノ和船等五隻ニ筆者ノ命名セル船名ヨリ岡田教授選定セシ名ヲトリ、本日ボート三隻二名ヲペンキニテ示ス、  
モーターボート Pelagia (22.5 馬力)  
和船 Janthina (5 馬力)  
ボート Ephyra  
ボート Veliger

ボート Zoea」(研究所日誌記事抜粋)

7月27日「京大サンマーハウス主任ノ京大水泳部長服部峻次郎医学部教授挨拶ニ来ル。」(研究所日誌記事抜粋)

8月17日「道路モ完成シ.... 水族館モオゾン2,3日4,500名ノ観覧者ガアル、現在ノ来所研究者ハ次ノ二氏デ山内講師ハ一時歸〇、動物三回生武田信之氏、動物科卒業生小林恵之助氏。」(研究所日誌記事抜粋)

8月21日「午後2時ヨリ"Pelagia"ニテ船長、弘、杉野、徳岡ノ4人ニテ沖ノ島ニ採集ニ行ク、船長ト弘、徳岡ハモググテ珊瑚ヤ魚等ヲトッタ.... 官舎ノ畳ノ入レカヘヲスル。」(研究所日誌記事抜粋)

8月24日 久邇宮多嘉王御一行来所

8月25日「弘、徳岡標本ノ整理ニ一日ヲ費ス、杉野〇〇ニテ生態写真ヲトル。」(研究所日誌記事抜粋)

9月14日「水族館モ秋枯レトデモイフベク、過般ノ暴風以来魚死スルモノ多ク且補充スベク魚モ探レズ、水族館ハ凡ソドガラアキノ状態ヲ呈ス。」(研究所日誌記事抜粋)

9月17日「カネテ依頼シテアツタ鯨ノ胎児約3尺位ノモノガ大島ヨリ田辺ノ氏ニヨッテ持参セラレテキタノデフォルマリン漬ニシテ水族館ニオキ観覧ノ資ニ供ス。」(研究所日誌記事抜粋)

12月3日「ストーヴニハ未ダ火ヲ入レズ、蓋シ平年ヨリモ5° 高ク暖カキタメナリ。」(研究所日誌記事抜粋)

12月21日「午后臨海実習ノ為鳥取高農教授猪股修二郎氏外学生8名来所、直チニプランクトンノ検鏡、実習指導ハ総テ弘講師ニ任サル、椎野助手不在ノ為全ク手ナシ、夕方椎野助手瀬戸ニ帰リシ由電話アリ、早速宅ニ行キ留守中ノ仕事ヲ一任サル、珍ラシイ人手ガアミニヒッカカタ、*Asterodiscus*<sup>(68)</sup>ナランカ？」(研究所日誌記事抜粋)

12月24日「珍ラシイヒトデガ三種、マダ見タコトモナイウニガー種、南ノ浜デ網ヲヒキアゲテキル

漁人達カラモラヒ水族館ニ入レル。」(研究所日誌記事抜粋)

1月14日「コノ正月ハ我水族館ノミナラズ、一般ニ白浜湯崎方面ノ客少ナカッタ按配デ、70円位シカ収入ガナカッタ。昨年ハ三日ニハ100円ヲ越シタノニ。」(研究所日誌記事抜粋)

1月21日「正月以来漸次気温ハ低下シ遂ニハ全国イタル所ニ酷寒襲来シタガ、....紀州ハ流石ニ暖カク、日中ハ氷点以下デアッタコトハナク、風ハキツイケレドモ雪モ時々アレ位ナモノデアル。因ニ正月以降ノ気温記録ハ次ノ通りデアッタ。....コノ為ノ水族館ニオケル魚等ノ被害ヲ見タ所ガ、全部死ンダモノウツボ、ブダイ、....コレデ見ルト、大体ニオイテ暖海性ノ魚ハ寒気ニ弱ク、深海性ノ魚ハ寒気ニ強イコトガワカル。」(研究所日誌記事抜粋)

1月24日「今日ハ珍ラシイ好天気トナギナノデ、皆デ湾内ノ調査ニデカケル。太刀ケ谷デ私ハフデツボノ生息ヲ測ル。見レバ内田先生カラタノマレテキタ水母モ非常ニ多イノデ多数採集シテ帰ッタガ、何レモ *Aurelia aurita*<sup>(69)</sup>ノ幼形カ *Ephyra*<sup>(60)</sup>ノミデ *Dactylometra*<sup>(61)</sup>ト覚シキモノガナカッタ。」(研究所日誌記事抜粋)

1月28日 内田亨教授(北海道帝国大学) 来所

2月9日「カネテ考ヘテキタ突堤沖ノ Tide pool ヲ十個撰定シ、ソノ Seasonal Succession<sup>(62)</sup>ヲ測ッテ見ルコトニシタ。」(研究所日誌記事抜粋)

2月11日「今迄ノ寒気ヲ運ヨク凌イダモノハ亀、シヨウサイフグ、....アルノミ。」(研究所日誌記事抜粋)

2月17日「空ッポノ水族館モ殆愁眉ヲ開ク状態ニナッタ。ウツボ、ブダイ、イゼエビ、....等ガ附ケ加ル。」(研究所日誌記事抜粋)

2月27日 八杉竜一氏(東京大学理学部動物学教室) 来所

2月28日「暖流ガオシヨセテキタタメデアラウカ、南浜ノ船着場ニトガリサルパ *Salpa fusiformis*<sup>(63)</sup>ノ物凄イ群集ガヨッテ岩ノ裏側ノ波静カナ所ニカタマッテキルノヲ見ツケタ。....ソノ *Coscinodiscus*<sup>(64)</sup>、ヤオビクラゲ、ボウズニラ等ガ含マレテキタ。尚コノ付近ニ *Diadumene luciae*<sup>(65)</sup>ガ非常ニ多ク且ツ大形デアルノヲ偶々発見シタ。」(研究所日誌記事抜粋)

3月11日「午後一寸ノ閑ヲミテ東白浜ノ水族館ヲ見テキタ。....水槽モ数ハ多イガ狭ク、種類モコチラヨリハ多イガ名前ナド説明ナド全ク出タラメヲ書イテイル。....タ刻突然教室ノ市川助手ガ来所。 *Hynobius*<sup>(66)</sup>ノ卵ヲ採リニキタノデアル。」(研究所日誌記事抜粋)

3月19日 酒井恒助手(東京文理科大学下田臨海実験所) 来所

「平林、弘、今度宮地助教授来所ノ為官舎カラ寄宿舎ニ引き移ル。」(研究所日誌記事抜粋)

3月22日「2日続キノ休日デ水族館モ物凄イ繁昌ブリ。昨日ハ513名、今日ハ630名モ入場者ガアリ、2日間デ120円余ノ上リガアッタ。」(研究所日誌記事抜粋)

3月24日「昨夕新任助教授宮地氏家族ヤ家財道具等ヲモッテ赴任。イレカハッテ今晚椎野助手上京、転任ノ途ニツイタ。」(研究所日誌記事抜粋)

#### ◆参考記事

◇4月、パラオ熱帯生物研究所がパラオ諸島コロール島に財団法人日本学術振興会により設置

## 1936 (昭和 11) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 岡田 要 (兼任、動物学教室教授)

助教授 宮地 傳三郎

助手 椎野 季雄

副手 杉野 久雄

講師 弘 富士夫

副手 平林 清

嘱託雇 徳岡 泰広

嘱託 宮下 義信

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

◇年度内異動 (日付順)

助手 (動物学教室) 椎野 季雄 (配置換、1936.04.01)

事務嘱託 中山 乙三郎 (任用、1936.04.01)

研究嘱託 徳岡 泰広 (任用換、1936.06.30)

### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

4月5日 春季臨海実習開始、駒井卓教授ほか指導、  
11日まで

実習 8-10 プランクトン検鏡

10-16 クラゲ *Aurelia aurita*<sup>(69)</sup> の解剖

4月6日 実習 8-10 プランクトン検鏡

10-16 *Marphysa iwamusi*<sup>(67)</sup> の解剖

4月7日 実習 8-10 プランクトン検鏡

10-16 *Salpa fusiformis*<sup>(63)</sup> の解剖

猪野峻平氏 (北海道帝国大学理学部植物学教室) 来所

4月8日 実習 8-11 プランクトン検鏡

11-16 ナマコの解剖 (*Holothuria atra*<sup>(68)</sup>,  
*Holothuria monacaria*<sup>(69)</sup>, *Polycheira rufescens*<sup>(70)</sup>,  
*Stichopus rufescens*<sup>(71)</sup>)

4月9日 実習 8-10 プランクトン検鏡

10-12 カツオノカムリの解剖

13-16 イカの解剖 (アフリイカがないためハナイカ)

「嵐デ南ノ浜ノ岩礁上ニ打チヨセラレタ群ハ  
*Physalia*<sup>(30)</sup>、*Lepas anatifera*<sup>(72)</sup>、*Lepas pectinata*<sup>(73)</sup>  
ノ大群デアル。」 (研究所日誌記事抜粋)

4月10日 実習 プランクトン少なく、アフリイカ  
が採れたためイカの解剖の継続

4月11日 実習 午前中 プランクトン少なく、ア  
フリイカの解剖の継続

午後 磯採集、御船山周辺の泥板岩・漣痕観察、  
崎の湯の湯崎海岸

4月12日 「朝、芝田氏ノ案内デ上山邸ニ駒井先生、  
弘、野沢君ト船長ハ上山勘太郎ガ過去二十年間ニ各  
地ヨリ採集サレタ化石ガ沢山集メラレテキルノデソ  
レヲ見ニ行ク。..... 研究室ノ各部屋ノワリアテ名ヲカ  
へ、元ノ化学実験室ヲ器具工作室トシ、元ノ器械室  
ヲ事務室トシ、元ノ生理学実験室ヲ化学実験室トシ、  
更ニ図書室ヲツケ加ヘタ。」 (研究所日誌記事抜粋)

4月18日 「水族館ノ名標ガ単ナル紙切レダケデ水  
デ濡レルトトレテ失フ等甚ダ醜態ナノデ取りワク等  
ヲツクツテ外観ヲヨクシヤウトイフ計画ノ下ニ一応  
先ヅ紙デ適当ノ大サニ書イテ、観覧者ノ評判ヲ聞イ  
テ見ヤウトイフ算段デ宮地助教授案ヲ作ル。大体各  
研究室ノ整理モ見違ヘルバカリニツイタノデ、今日  
ハ図書ヲ今迄何ラ記入シテイナカッタ図書原簿ニ記  
入スル。本日芝田氏ノ案内ニテ南下シタ植物教室ノ郡  
場教授、三木氏ハ富田村ノ奥ニアル化石蒐集ノ  
Amateur デアツテ俗ニ化石寺ト称セラレル所ノ大日  
山寺 (源光園) ニ赴キ、同寺所蔵ノ化石ヲ見タル後  
夕刻研究所ニ帰リ一泊サル。」 (研究所日誌記事抜粋)

奥田四郎氏 (北海道帝国大学) 来所

4月24日 「春ノ大潮デ潮ガ非常ニヨクヒク。奥田氏  
崎ノ湯ノ南岸ニオイテオニイソメノ三尺位ノモノヲニ



匹採集、又 *Balanoglossus*<sup>(12)</sup>ノ種類デ下半緑色上半黄色ノ長サ約 80 mm バカリノモノヲ発見サレタ、ココデハ *Balanoglossus*<sup>(12)</sup>ハ、田島ニイル大形ノモノバカリカト思ッテイタガ、ソウデハナカッタ、又同一個所デ *Endoprocta*<sup>(74)</sup>ニ含マレルスズコケムシ (*Barentia misakiensis* Oka<sup>(75)</sup>)ヲ多数発見サレタ、長サ 10 mm ニ達シナイ小形ノモノナノデ今迄見逃シテキタモノデアル、トモカクモ採集場所トシテハ崎ノ湯ノ附近ハ面白イ所デアル、.... 今日防波堤附近デうみうし五種程採集、尚今迄クロフジツボハ一種ノミト思ッテキタガ、先般ヤハリ実習ノ時崎ノ湯南ニイッタ時ニ紫色ノモノト緑色ノモノトガ著シイ対比ヲシテキルノニ氣ヅキ、アハセテ Krüger<sup>(76)</sup>ガ *viridis*<sup>(77)</sup>ヲ日本ヨリ報告シテキルコト、又筆者ガ南洋デ *viridis*<sup>(77)</sup>ノ緑色ノモノバカリ見タノトヲ考へ、今日採集ノ 1 ケ体シラベテ見ルトヤハリ *viridis* モ日本ニハ多数キルコトガアキラカニナッタ、即チ、緑色ノモノ *Tetracrita squamosa viridis* Darwin<sup>(78)</sup>、紫色ノモノ *Tetracrita squamosa japonica* Pilsbry<sup>(79)</sup>.」(研究所日誌記事抜粋)

4月26日 「奥田氏、船長ト共ニ阪田鼻南ノ砂地ニ採集ニ行ク、再ビ *Barentia*<sup>(80)</sup>ノ美事ナ標本ヲトル。」(研究所日誌記事抜粋)

4月27日 「*Pelagia* ニヨリ椿温泉ニ赴ク、何時イッテモイイ所デアル、.... ココデハ瀬戸トチガッテケガキノ代リニオハグロガキ凡ソ大部分ヲ占メ、*Chthamalus challengeri*<sup>(81)</sup>ノ代リニ *Chthamalus Pilsbryi*<sup>(82)</sup>ガ多イ、.... 同行者、宮地、弘、平林、奥田、船長ノ五名、尚椿港ノ南側ノ島ノ岩ノ層上ニ沢山ノ一見ミミズノ如キ恰好ノ化石ガ層状ニ排列セ

ルヲ見ル、キット珍シキモノナランモ、....」(研究所日誌記事抜粋)

5月1日 「教室ハ全部新館ノ方ニ引キ移ッタ、瀬戸臨海研究所ノ Office トシテ図書室ノ隣リノ製図室ヲアテガッテモラフコトニナッタ。」(研究所日誌記事抜粋)

5月14日 「水族館ニハ従来余リトレタコトノナイウミヤナギ、ウミエラノ見事ナ標本ガ館ヲ賑シテキル。」(研究所日誌記事抜粋)

5月20日 「図書整理続ク、新任和歌山県知事県内ノ初巡視ニテ本日本所ヲ参観シタ。」(研究所日誌記事抜粋)

5月21日 「朝南海高島屋宣伝部ノ東島孝一氏岡田所長ノ添書ヲ以ッテ来所、5月26日より6月7日迄、同所ニオイテ<sup>(83)</sup>

6月26日 寄宿舎前の空き地を庭園に整備

7月2日 夏季臨海実習開始、8日まで

8月6日 時岡隆氏(三井海洋生物研究所)来所

9月1日 2回生夏季学生実習開始、6日まで

12月15日 ウミガメなどの飼育のため保温装置を水族館水槽の一部に設置

12月24日 宮地傳三郎助教授、台湾へ湖沼調査、

1月25日まで

3月11日 馬場菊太郎氏(九州帝国大学天草臨海実験所)来所

## ◆参考記事

◇6月、教授杉山基範(地質学鉱物学教室)、理学部長に叙任

## 1937 (昭和 12) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

幹事 岡田 要(兼任、動物学教室教授)

助教授 宮地 傳三郎

副手 杉野 久雄  
講師 弘 富士夫  
嘱託 平林 清  
研究嘱託 徳岡 泰広  
嘱託 宮下 義信  
雇員 雑賀 弥之助  
雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵  
事務嘱託 中山 乙三郎

◇年度内異動（日付順）

副手 杉野 久雄（免官、1937.08.31）  
幹事 岡田 要（退任、1937.11.10）  
幹事 駒井 卓（就任、1937.11.10、第4代）  
所長 駒井 卓（就任、1937.12.24?、初代）  
研究嘱託 徳岡 泰広（免官、1938.03.31）  
雇員 津田 富蔵（辞職、1938.03.31）

◆実験所記事（4月1日－3月31日）

4月4日 2回生春季臨海実習開始、10日まで  
4月9日 大島廣教授（九州帝国大学）来所  
加藤光次郎氏（三井海洋生物研究所）来所  
5月3日 植物学科1回生実習  
5月17日 海軍委託研究相互協議会

6月28日 夏季臨海実習開始、7月4日まで  
7月9日 図書室に固定書棚を新設  
7月23日 第2回紀南採集旅行、26日まで  
9月1日 2回生夏季学生実習開始、6日まで  
9月5日 標本陳列室に標本戸棚14台を設置  
9月18日 瀧巖助教授（広島文理科大学向島臨海実験所）来所  
11月5日 宮地傳三郎助教授、ペラギアにて大阪湾ベントス調査  
12月24日 勅令により官制が施かれて瀬戸臨海実験所と改称  
1月12日 地震により被害  
2月17日 林良二氏（北海道帝国大学）来所  
2月27日 水族館の経営を白浜土地会社に委託  
3月24日 植物学科学生実習開始、29日まで

◆参考記事

◇7月19日、井狩二郎元助手、逝去  
◇11月30日、岡田要教授（動物学教室）、東京帝国大学へ転任、京都帝国大学教授（動物学教室）を兼任  
◇12月、日中戦争勃発

## 1938（昭和13）年度

◆実験所職員

◇4月1日現在在職者  
所長 駒井 卓（兼任、動物学教室教授）  
助教授 宮地 傳三郎  
講師 弘 富士夫  
嘱託 平林 清  
嘱託 宮下 義信  
雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵  
事務嘱託 中山 乙三郎

◇年度内異動（日付順）

講師（化学研究所）平林 清（昇任転出、1938.05.31）  
雇員 青山 彦六（任用、1938.06.18）  
雇員 貴田 芳子（任用、1938.06.18）

助手 時岡 隆 (任用、三井海洋生物研究所研究員、  
1938.06.30)

事務嘱託 中山 乙三郎 (辞職、1938.07.31)

#### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

4月1日 春季臨海実習開始、8日まで

5月16日 弘富士夫講師、台湾へ研究旅行、7月3  
日まで

5月25日 海軍委託研究連絡会、26日まで

6月20日 宮地傳三郎助教授、関東州嘱託として水  
源調査のため満州へ出張、8月13日まで

7月1日 夏季臨海実習開始、7月8日まで

7月30日 水族館経営を白浜土地会社に委託、水族

館観覧券払下規程制定

10月1日 うみがめ屋外プール増設

10月11日 宮地傳三郎助教授、陸水調査のため満  
州へ、11月5日まで

11月11日 宮地傳三郎助教授・時岡隆助手、ペラ  
ギアで大阪湾底棲動物調査

12月10日 大学院学生武田信之、研究と療養のため滞在

12月26日 久邇宮妃ほか来所

1月16日 江口元起氏 (満州師道高等学校) 来所

#### ◆参考記事

なし

## 1939 (昭和 14) 年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

所長 駒井 卓 (兼任、動物学教室教授)

助教授 宮地 傳三郎

講師 弘 富士夫

助手 時岡 隆

嘱託 宮下 義信

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

雇員 青山 彦六

雇員 貴田 芳子

◇年度内異動 (日付順)

講師 弘 富士夫 (応召、1939.04)

助手 野沢 兼文 (任用、1939.04.30)

#### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

4月1日 春季臨海実習開始、7日まで

6月1日 行幸十周年記念式挙行、雑賀弥之助氏 17  
年勤続表彰

7月1日 夏季臨海実習開始、7月12日まで

8月2日 「徳岡氏点呼にて上洛、雑賀氏阪神地方  
水族館見学のため出張す。」 (実験所日誌記事抜粋)

8月3日 「白浜自然科学博物館の山本虎夫氏、辞  
めて和歌山に赴かる。」 (実験所日誌記事抜粋)

8月27日 「大阪湾での研究を終へて宮地助教授帰  
所さる。」 (実験所日誌記事抜粋)

9月25日 「川村多実二教授の誕生祝賀会出席を兼  
ねて宮地助教授上洛。」 (実験所日誌記事抜粋)

10月3日 第4回紀南採集旅行、宮地傳三郎助教  
授・時岡隆助手・徳岡泰広嘱託・雑賀弥之助船長「宮  
地助教授、時岡助手、徳岡氏および船長は勝浦方面  
に採集に出る、野沢助手は船に弱いため残留。」 (実  
験所日誌記事抜粋)

10月7日 「宮地助教授一行、元気に夕方帰所。」 (実  
験所日誌記事抜粋)

10月14日 水族館で「海産動物生態絵葉書」8枚1組を発売「カゴカキダイ、ツノダシ、マダイ、オコゼ、ミノカサゴ、ケヤリ、セルプラ<sup>(84)</sup>、及びイラモを含む、褐色と緑色の印刷で、各4枚づつ。」(実験所日誌記事抜粋)

10月17日 「午前中昨夜の颱風の名残あるも、午後静まる。当村の村祭で獅子舞来る。3円奉納。」(実験所日誌記事抜粋)

12月18日 「川村教授をはじめ、上野、山元、山口の諸氏が熊野川水系の生物調査に来られ、白良荘に宿られた。」(実験所日誌記事抜粋)

12月22日 鳥取高等農業学校臨海実習、24日まで。

12月26日 「宮地助教授一家及び時岡助手帰郷。」(実験所日誌記事抜粋)

12月27日 「夜、駒井所長来所。特研に宿る。」(実験所日誌記事抜粋)

12月28日 「9時頃銭氏夫人及び令嬢来所。所長の案内で水族館等を見学。」(実験所日誌記事抜粋)

12月30日 「朝地震あり。朝銭夫人等三度来所。令嬢はPlanktonを検鏡。駒井所長は一時の急行で帰洛。銭夫人達は三時頃退所。やっと所は緊張から解放された。」(実験所日誌記事抜粋)

12月31日 「朝から上天気。水族館の客も多いようだ。」(実験所日誌記事抜粋)

1月2日 「武田氏帰所。汽車が満員で貨物の箱に入ってしまった由。今年は水族館の客も多いらしい。」(実験所日誌記事抜粋)

1月6日 「総長一行5名午前9時来所。(羽田総長、並河農学部長、菊池農場長、会計予算課長、吉村書記)。特研で茶を飲んでから宮地助教授の説明.... 11時何分の汽車で大島へ向はれた。大島の亜熱帯生物

研究所創立の観察<sup>(85)</sup>である。」(実験所日誌記事抜粋)

1月25日 「時岡助手、東京水産試験所その他でのプランクトン調査を終へて一ヶ月振りに帰所。」(実験所日誌記事抜粋)

2月1日 「時岡助手が四月より八ヶ月間パラオ熱帯生物研究所へ行く事に決定したので事務引継を繰上げて今月から主として野沢助手が事務と図書の方を一人でやる事になる。」(実験所日誌記事抜粋)

2月7日 「教室、藤井氏より *Drosophila montium*<sup>(86)</sup>のstock約40本をこちらで飼ってくれと送ってくる。京都では停電でこの熱帯性のドロソフィラが困らしい。主に武田君にやってもらうよりほかしかたがない。」(実験所日誌記事抜粋)

2月9日 「時岡助手が八木薬店でフォルマリンをみつけて早速二本購入。戦時状態のため薬品の不足はものすごいものらしい。醋酸は入荷の見込さへ立たない由。今実験所に品が切れている丈に困っている。」(実験所日誌記事抜粋)

3月31日 臨海実習学生来所

#### ◆参考資料

『京都帝国大学理学部附属瀬戸臨海実験所(附水族館)』(駒井卓(編)、瀬戸臨海実験所事務室、1939)

#### ◆参考記事

◇6月3日、行幸記念自然科学博物館が江津良に完成開館。館長坂口總一郎、館員山本虎夫

◇9月、教授堀場信吉(化学)理学部長に補任

◇3月1日、町制施行により瀬戸鉛山村は白浜町と改称

## 1940（昭和 15）年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

所長 駒井 卓（兼任、動物学教室教授）

助教授 宮地 傳三郎

講師 弘 富士夫（応召）

助手 時岡 隆

助手 野沢 兼文

嘱託 宮下 義信

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

雇員 青山 彦六

雇員 貴田 芳子

◇年度内異動（日付順）

研究嘱託 増井 哲夫（任用、1940.05.20）

嘱託 増井 哲夫（物品取扱主任、1940.06.30）

嘱託 黒田 徳米（任用、1940.07）

雇員 浦 舟二

雇？ 芝田和蔵（任用、水族館勤務、1940.08.16）

嘱託 徳岡 泰広（辞職、1940.11.21）

6月29日 夏季学生実習開始、7月7日まで

7月27日 ペラギアで伊勢湾底棲動物調査、宮地傳三郎助教授ほか

8月17日 甲南高等学校実習、市川衛教授指導

8月20日 別府湾底棲動物調査、宮地傳三郎助教授浦舟二氏帯同

11月4日 英虞湾底棲動物調査、宮地傳三郎助教授

11月16日 紀元二千六百年記念式典

12月27日 高松宮妃来所

1月2日 「水族館観客多し。」（実験所日誌記事抜粋）

1月20日 岡田弥一郎教授（東京高等師範学校）来所

1月30日 時岡隆助手、帰任

2月11日 「水族館来客 200 余名。」（実験所日誌記事抜粋）

2月17日 「南部梅林盛を告げ春近きを思はしむ。」（実験所日誌記事抜粋）

3月14日 「駐日支那大使来所。」（実験所日誌記事抜粋）

3月16日 李王很殿下（第四師団長）来所、貝採集

3月31日 春季臨海実習開始、4月10日まで、駒井教授ほか指導

### ◆実験所記事（4月1日 - 3月31日）

4月1日 春季臨海実習開始、10日まで

4月7日 時岡隆助手、パラオ熱帯生物研究所へ研究のため出張、1月30日まで

### ◆参考記事

◇8月8日、紀勢西線、新宮まで全通

## 1941（昭和 16）年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

所長 駒井 卓（兼任、動物学教室教授）

助教授 宮地 傳三郎

講師 弘 富士夫（応召）

助手 時岡 隆

助手 野沢 兼文

嘱託 宮下 義信

嘱託 増井 哲夫  
嘱託 黒田 徳米  
雇員 雑賀 弥之助  
雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵  
雇員 青山 彦六  
雇員 貴田 芳子  
雇員 浦 舟二

◇年度内異動（日付順）

臨時雇 芝田 和蔵（任用、1941.04.16）  
助手 野沢 兼文（動物学教室勤務、1941.08.11）  
講師 弘 富士夫（除隊帰任、1941.11.04）  
嘱託 波部 忠重（任用、1941.12.30）  
助手 野沢 兼文（免官、1941.12.31）  
講師 内海富士夫（改姓、1942.03.06、旧姓弘）

#### ◆実験所記事（4月1日－3月31日）

4月1日 春期臨海実習、10日まで、駒井卓教授ほか指導  
4月7日 「川村教授磯ひよ鳥鳴声きく為来所。」（実験所日誌記事抜粋）  
4月11日 「臨海隣保班の富田村権現への桜狩り、白浜口から老幼町余の長さで、徒歩ハイキングなり。」（実験所日誌記事抜粋）  
4月14日 宮地傳三郎助教授、増井哲夫嘱託、的矢湾、五ヶ所湾ベントス調査、23日まで

5月10日 宮地傳三郎助教授、増井哲夫嘱託、七尾湾ベントス調査、19日まで  
6月1日 宮地傳三郎助教授、増井哲夫嘱託、福岡湾ベントス調査、3日まで  
6月5日 「豪雨の為停電、水族館魚族の斃死多数。」（実験所日誌記事抜粋）  
7月1日 臨海実習、10日まで、駒井卓教授ほか指導  
7月14日 宮地傳三郎助教授、増井哲夫嘱託、鹿児島湾ベントス調査、29日まで  
7月29日 「蒲原氏来所、紀州沿岸生物目録の魚類の項を依頼せる為。」（実験所日誌記事抜粋）  
7月28日 甲南高等学校臨海実習、市川衛教授指導  
8月6日 「島島及田辺湾沿岸の群聚生態学的研究の打合せを助教授以下一同にて行ふ。」（実験所日誌記事抜粋）  
10月7日 團勝磨氏（東京帝国大学三崎臨海実験所）来所  
3月12日 荒木大将来所  
3月14日 花岡謹一郎氏（北海道帝国大学）来所  
3月20日 臨海実習、30日まで

#### ◆参考記事

◇9月、教授郡場寛（植物学）理学部長に補任  
◇12月8日、太平洋戦争勃発  
◇3月24日、岡田要教授（東京帝国大学）、京都帝国大学教授（動物学教室、兼任）を辞任

## 1942（昭和17）年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者  
所長 駒井 卓（兼任、動物学教室教授）  
助教授 宮地 傳三郎  
講師 内海 富士夫

助手 時岡 隆  
助手 野沢 兼文  
嘱託 宮下 義信  
嘱託 増井 哲夫  
嘱託 黒田 徳米

嘱託 波部 忠重  
雇員 雑賀 弥之助  
雇員 真鍋 繁次郎  
雇員 正木 常蔵  
雇員 青山 彦六  
雇員 貴田 芳子  
雇員 浦 舟二

◇年度内異動（日付順）

教授（動物学教室） 宮地 傳三郎（昇任転出、  
1942.04.20）  
助手 時岡 隆（応召、1942.05.01）  
助手 武田 信之（任用、1942.05.31）  
助手 野沢 兼文（実験所勤務、資金前渡官吏、  
1942.05.05）  
嘱託 増井 哲夫（病気退職、1942.07.15）  
嘱託 坂口 総一郎（任用、1942.11.01）  
嘱託無給 山路 勇（任用、1943.03.31）

◆実験所記事（4月1日 - 3月31日）

4月1日 「弘講師一号官舎に移転し、宮地助教授  
寄宿舍へと移り交はる。」（実験所日誌記事抜粋）  
4月11日 「夜京都へ栄転さるる宮地助教授送別の  
宴を隣保班相寄って寄宿舍食堂に於て催す。」（実験  
所日誌記事抜粋）  
4月14日 波部忠重嘱託、九州山川港底棲群聚並ぐんしやうならびに  
貝類調査  
「宮地助教授の研究室たりし第四研究室に弘講師、  
第二に増井嘱託、第三に波部嘱託移転す。現在所員  
下記の如し。弘（内海）講師、時岡助手、増井、波  
部嘱託、高久武氏、武田信之氏（教室）滞在。」（実  
験所日誌記事抜粋）  
4月18日 「本日正午より午後にかけて東京横浜川崎、  
名古屋神戸に初の敵機来襲あり。..... 白浜にも午後  
二時空襲のサイレン鳴り一時行人を驚かせしも何  
の事もなく既に敵機通過の後か。和歌山四日市附近

にて機銃掃射をせしとか。夜も又警戒警報のまま時  
刻移る。」（実験所日誌記事抜粋）

4月20日 宇垣一成大将来所

4月29日 「今朝時岡隆氏突然応召の電報来たり、  
一同意外に驚く。」（実験所日誌記事抜粋）

4月30日 「本日総選挙。夕刻時岡氏の歓送会を寄  
宿舍食堂に於て催す。」（実験所日誌記事抜粋）

5月2日 第一回紀州沿海生物相調査採集行、6日まで、  
周参見、串本、九竜島、大島、里野、江住、市江崎「大  
島方面採集行のため下記メンバー出発す。隊長内海富  
士夫講師。所員波部、雑賀嘱託。部外参加酒井、椎野  
両博士。Janthina 新名「塔島」の舷側名も新しく  
雑賀船長、内海、椎野両氏座乗の舟、午前八時出帆。  
他は陸路串本へ赴く。」（実験所日誌記事抜粋）

5月11日 「浜本漁夫が日置沖200尋の所で採集し  
た珍しいやどかりの種類を持参して来た。  
Doflein<sup>(87)</sup>の本でしらべてみるに *Pylochelis*<sup>(88)</sup>又は  
*Mixtopagurus*<sup>(89)</sup>に属するものらしく種名も明かで  
ないが.....」（実験所日誌記事抜粋）

5月13日 「突然駒井所長来所。事務打合せの為な  
り。時岡氏応召の後をうけ資金管理者をおく必要上、  
新たに武田信之氏を助手となす事に決定。尚、実験  
所の所員の分担業務を定めらる。内海講師（総務、  
土地、建物、警備、対外折衝）、増井嘱託（事務会  
計、営繕）、波部、雑賀嘱託（標本、水族館）、武田  
助手（図書、器材）。」（実験所日誌記事抜粋）

5月19日 「5月5日附を以て時岡助手資金前渡官  
吏を免ぜられ、教室にうつった野沢助手一時的に資  
金前渡官吏を命ぜらる。」（実験所日誌記事抜粋）

6月6日 「去る5月31日附を以て武田信之氏当  
実験所詰助手任命の辞令が出た。」（実験所日誌記  
事抜粋）

6月10日 「米の配給なき為御客さんには食事を  
外にさせていただく不便をかける。」（実験所日誌記  
事抜粋）

6月11日 平沼騏八郎男爵来所  
 6月14日 「二三日前ヨリ増井囑託病床に臥す。」(実験所日誌記事抜粋)  
 7月15日 「増井囑託病後静養ノ為、帰省、当分ノ間療養生活ヲ送ル由、武田助手又近頃不快就床、ヨッテ実験所ニテ元気ナルモノハ内海講師ノミトナル、本日臨海隣保班ニテ出征中ノ時岡助手ニ慰問袋及慰問文ヲ発送ス。」(実験所日誌記事抜粋)  
 7月19日 第二回紀州生物相調査、内海富士夫講師、雑賀船長、塔島号にて南部沖  
 7月25日 臨海実習、31日まで、駒井卓教授ほか指導  
 7月27日 蒲原稔治教授(高知高等学校)来所、学生一行。  
 8月12日 久保伊津男助教授(水産講習所)来所、紀州沿岸生物相調査の<sup>えび</sup>蝦類調査担当  
 8月24日 内海富士夫講師、九州へ採集旅行、9月3日まで  
 9月4日 第三回紀州生物相調査、波部忠重囑託、白崎  
 9月24日 第四回紀州生物相調査、内海富士夫講師、見老津  
 9月26日 波部忠重囑託、浦神勝浦湾底<sup>ぐんしやう</sup>棲群聚調査、28日まで  
 10月29日 武田信之助手、病气悪化のため京都で入院  
 10月16日 「嘗て白浜行幸記念博物館員タリシ山本虎夫氏現在軍属トシテ牡丹江ニ在勤中三年振りニ一月ノ休暇ヲツテ来所、同所デ三年間採集ノ30種余ニアマル陸産貝類ヲ多数持参シ、コレガ研究ヲ波部氏ニ託ス。」(実験所日誌記事抜粋)  
 10月27日 「夕刻宮地教授並ニ水谷書記来所、コノ度ノ梨本宮妃殿下御成ノ事ニツイテ準備ナス。」(実験所日誌記事抜粋)  
 10月28日 「尚海岸ハ夜光虫ノ著シキ発生ヲ見暗

夜ニ燐光ヲ波ノ動キト共ニ発シ時ナラヌ不知火ヲ現出、昼間ハソノ個所ハ鮮朱色、既ニ三日ナリ。」(実験所日誌記事抜粋)  
 10月29日 10時、梨本宮妃殿下来所  
 11月5日 臨海隣組ハイキング、内海隊長、湯崎、三段壁、平草原、大浦  
 11月8日 「又又附近海岸ニ *Noctiluca*<sup>(90)</sup>ノ大群ヲナシテ海辺ニウチヨセタルヲ見ル。」(実験所日誌記事抜粋)  
 11月17日 「本月1日付デ元白浜自然科学博物館長阪口氏当実験所囑託ノ辞令ガデタ。」(実験所日誌記事抜粋)  
 11月30日 「所員武田信之助手病气ノ為帰洛后深泥ケ池ノ京都保養院ニ入院サレ療治ニ努メラレルコトニナリ、代ッテ再ビ資金前渡官吏トシテ野沢助手ガ任命サル。」(実験所日誌記事抜粋)  
 12月15日 「曩ニ死去サレシ元当所々員宮下義信氏ノ蔵書ノ一部ヲ二百円ヲ以テ当所ニテ購入、又 *Tornaria*<sup>(91)</sup>、*Sacculina*<sup>(92)</sup>等ノプレパラートノ一部ノ寄贈ヲウク。」(実験所日誌記事抜粋)  
 1月17日 博物館移転工事開始  
 1月21日 顕微鏡盗難事件発生  
 2月14日 「連日裏ノ浜ニ寒気ノ為ニ凍死スル魚ヲ拾フ人デ賑ハフ。」(実験所日誌記事抜粋)  
 2月20日 波部忠重囑託、山川湾底棲群聚調査、3月10日まで  
 2月25日 「昭和十六・七年出版ノ当所業績ヲ本邦内29、外地5箇所ノ各実験所等ニ送附スル、...業績ハ今回ヨリ邦文ヲモ加ヘルコトニナリ大量トナル、欧文業績 (no. 97-110) 邦文業績 (no. 1-12)、外国ヘハ戦争ノ為不可能ニナッタノデ、残ッタモノガウヅタカク書棚ヲウヅメル、本日阪口氏裏ノ浜デ *Carinaria*<sup>(93)</sup>ノ巨大ナ標本ヲ拾フ、長サ1尺以上ニ及ビマダ生キテイタ。」(実験所日誌記事抜粋)



3月22日「今日ヨリ寄宿舍ニ新タニ顕微鏡保管ノ戸棚ヲ作り終ヘタノデソノ中ニ全部顕微鏡ヲ保管、機械等ヲ整理ス。(実験所日誌記事抜粋)」

#### ◆参考資料

『京都帝大瀬戸臨海実験所』(宮地傳三郎、海洋の

科学、2(5)、1942)

#### ◆参考記事

◇7月17日、宮下義信元嘱託、逝去

◇9月、教授松本敏三(学)<sup>94</sup>理学部長に補任

◇10月31日、増井哲夫元嘱託、逝去

## 1943(昭和18)年度

#### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

所長 駒井 卓(兼任、動物学教室教授)

講師 内海 富士夫

助手 時岡 隆(応召)

助手 野沢 兼文

助手 武田 信之

嘱託 黒田 徳米

嘱託 波部 忠重

嘱託 坂口 総一郎

嘱託 山路 勇

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

雇員 青山 彦六

雇員 貴田 芳子

雇員 浦 舟二

雇員 芝田 和蔵

◇年度内異動(日付順)

嘱託無給 山路 勇(退職、1943.09.30)

講師 内海 富士夫(応召、1944.02.05、広島西部軍第六部隊)

#### ◆実験所記事(4月1日-3月31日)

4月2日 春季臨海実習開始(7日まで)

4月7日「十時頃カラ船二艇ニ乗ジ一同昼食携行ニテ湯ノ崎ニ磯採集ニ赴ク。折カラひじきノロアケ日トキテキルノデ浜ハ非常ニ賑ハフ。... 夜阪口嘱託ノ好意ニヨリ持参サレタシルコ、三宝柑、ヨウカンニテ茶話会ガ行ハレル。近頃ニナイ珍ラシイ菓子ナノデー同喜ブコト限リナシ。」(実験所日誌記事抜粋)

4月10日「波部嘱託及ビ学生山根謹爾・加藤釧郎君塔島号ニテ由良・下津湾ノ底棲生物相調査ノ為早朝出発」(実験所日誌記事抜粋)(13日まで)

4月17日「実験所職員一同家族慰安ノ意味デ富田権現平ニ桜見ニ行ク。... 白浜口までバス、以后徒歩」(実験所日誌記事抜粋)

4月18日「山路勇氏(元加太小学校勤務)専科入学迄ノ間当所ニアッテプランクトンヲ研究センガ為本日ヨリ寄宿舍ノ住人トナル。」(実験所日誌記事抜粋)

5月14日「第八陸軍技研附青山克彦中佐及巨勢寛少尉来所、海蛭ノ採集ニ協力ヲ依頼サル。南方作戦ノ為夜光剤トシテ利用ニ資センガ為」(実験所日誌記事抜粋)

5月15日 三宅貞祥氏(九州帝国大学)来所

6月1日 内海富士夫講師、蔓脚類相調査のため九州

6月13日「式[註、上棟式]ヲ行ッタ翌日早クモ博物館建物ガ三尺ズレヲ生ズトハ不細工ナコト」(実験所日誌記事抜粋)

6月29日「出征中ノ時岡所員ノ上官タル陸軍技手

伊勢○夫氏一ヶ月の賜暇休暇ニテ来所サレ、種々時間所員ノ軍務精励ノ状況ヲ聞ク、同君昨月上等兵ニ昇進シタル由」(実験所日誌記事抜粋)

7月10日「化研嘱託下元貞雄氏船喰虫予防塗料試験ノ為来所、今后実験所ニオイテモ戦時下ニオケル国策ニ対処スル為各研究所ト共同シ、大々的ニ之ガ対策研究ニ従事スル様指令アリ。」(実験所日誌記事抜粋)

7月14日「寄宿舍前ノ元ノ梅畑ガ阪口嘱託ノ努力ニヨリ一町歩バカリノ芋畑ト化シ、今日畑ノ上ニカカル松ノ枝ヲ程ヨク切落シー一段ト太陽ノ恵ヲウケルコトナッタ、.... 波部嘱託点呼予習デ帰郷。」(実験所日誌記事抜粋)

7月16日 臨海実習開始、26日まで

7月24日「実験所モ何ラカノ国策的研究ニヨツテ戦時国家ニ貢献セント船喰虫ニ関スル研究ヲ最大ノ題目トシテ今后波部嘱託ヲ主任トシ所員協同シテ研究ヲ開始スル様駒井所長ヨリ一同所員参集ノ上申渡シアリ。」(実験所日誌記事抜粋)

7月30日「当所ノ最モイイ Zeiss 顕微鏡ヲ教室ノ遺伝ノ講座ニカスコトニナッタ。」(実験所日誌記事抜粋)

8月2日 蒲原稔治教授(高知高等学校) 来所

8月5日「大島岡田両氏編纂ノ「系統動物学」第一巻出来、実験所及所員購入予定ノ六冊分養賢堂ヨリオクリ来ル。」(実験所日誌記事抜粋)

8月9日 波部忠重嘱託、土佐浦戸湾底棲生物調査

8月16日 和歌山県博物学会生物研究会開催、18日まで

10月5日 團勝磨教授(東京女子高等師範学校) 来所

11月7日 波部忠重嘱託、小浜湾底棲生物調査

12月24日「本日俸給及ボーナス来タル、助手ハ22割、傭人ハ18割、講師ハ7割5分。」(実験所日誌記事抜粋)

12月26日 本年度臨海実験所研究業績(邦文13-15、欧文111-116)ヲ各地研究所、試験場、博物館ニ発送ス。」(実験所日誌記事抜粋)

1月1日「午前九時一同記念碑ノ前ニ参集、遥拝

式ヲ行ナヒ終ツテ三所神社ニ参拝ス。」(実験所日誌記事抜粋)

1月4日「動物教室嘱託島田勝四郎氏来所、掛図3枚(クラゲ、コケムシ)ヲ描イテモラフ。」(実験所日誌記事抜粋)

1月21日「昨夕本所助手トシテアリシ武田信之氏長ラク病氣療養ノ為入院中ノ所、秋ヨリ退院、再ビ本所ニ居ヲ求メテ実験所職員(嘱託)トシテ勤メラレルコトニナッタ。」(実験所日誌記事抜粋)

1月27日 内海富士夫講師、松永湾底棲生物調査

2月7日 内海富士夫講師、入隊のため離所「朝7時.... 乾杯シ饞別及所員寄書ノ日章旗ヲ送ル、八時半神社参拝後.... 九時五分発ノ列車ニテ白浜ロヲ汽笛ノ音ト共ニ....」(実験所日誌記事抜粋)

2月21日「水族館ノ亀寒氣ト空腹ノタメカニ匹(ベッカフガメ及アオウミガメ)死亡、早速解剖シソノ肉ヲ食料トス、甚ダ美味ナリ鶏肉ト略同様、鯨肉ノ配給アリ(立ヶ谷ニゴンドウ26頭迷込ムソノ肉ナリ)」(実験所日誌記事抜粋)

2月23日「坂口嘱託本日モ鳩三匹ヲ撃ツ、タニハ鳩スキヲスル、ソノ中ニ剥製中ノ鳥フクロウトセグロゴキノ肉ヲ採リ混ズ、共ニ甚ダ美味シク久シ振リニ満腹セリ、内海氏比島へ出発セル由。」(実験所日誌記事抜粋)

3月27日 奈良女子高等師範学校臨海実習実施

3月29日「小野森両氏来所、又、野沢助手も会計検査立会を兼ねて来所急に賑ふ、野沢助手は当分当所に滞在勤務の予定。」(実験所日誌記事抜粋)

3月31日「午前8時半より井口、野沢、波部の三人立会にて会計帳簿の検査をなす、無事終了。」(実験所日誌記事抜粋)

#### ◆参考記事

◇5月12日、川村多實二教授停年退官、還暦祝賀会が午後6時から大学本部教官食堂で開催

◇7月3日、土田清忠氏(動物学教室事務)退職

## 1944 (昭和 19) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

所長 駒井 卓 (兼任、動物学教室教授)

講師 内海 富士夫 (応召)

助手 時岡 隆 (応召)

助手 野沢 兼文

助手 武田 信之

嘱託 黒田 徳米

嘱託 波部 忠重

嘱託 坂口 総一郎

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

雇員 青山 彦六

雇員 貴田 芳子

雇員 浦 舟二

雇員 芝田 和蔵

◇年度内異動 (日付順)

研究嘱託 粕谷 千代子 (採用、1944.04.30)

助手 野沢 兼文 (応召、1944.07.29 ; ? 除隊、1944.10.13)

### ◆実験所敷地建物

◇博物館、木造2階建、216 m<sup>2</sup>、延 409 m<sup>2</sup>

和歌山県博物学会行幸記念自然科学博物館を移管受入、1944.06.01

### ◆実験所記事 (4月1日 - 3月31日)

4月1日 「坂口氏は食料増強のためヒメウ、カモメを7羽四双付近に於いて射止め寄贈さる。」(実験所日誌記事抜粋)

4月2日 春季臨海実習開始、8日まで

4月6日 満洲国大使来所

4月8日 「この日前日の南よりの猛風雨にて水族館下に陸軍二等兵の戦死体漂着す。雑賀船長直に憲兵に報じ検視をなす。服に約一寸(穀部)に生長せるエボシガヒが多数附着する。」(実験所日誌記事抜粋)

4月12日 「大阪陸軍糧秣支廠技師近末貢氏来訪。Plankton の食料化につき相談したいとて野沢助手と約1時間に渡り密談。」(実験所日誌記事抜粋)

4月26日 「今般当所嘱託坂口総一郎氏は学生課より依託の形式でサンマーハウスの監理者となり同所に転宅する事に決定。」(実験所日誌記事抜粋)

5月16日 「坂口嘱託のサンマーハウス転宅完了。昭和18年度当所の負債の内、唯今判明せる額は実に4692円94銭、誠に由々しき大事也。」(実験所日誌記事抜粋)

5月26日 「博物館正面道路改修のため野沢、波部両所員以下一同、9時より勤労作業を行ふ。」(実験所日誌記事抜粋)

5月30日 「所長は博物館の標本整理を自ら指揮。」(実験所日誌記事抜粋)

6月1日 和歌山県博物学会行幸記念自然科学博物館の移管受入式催行、総長代理松本理學部長、広瀬和歌山県知事ほか列席「式当日、10時より来賓あり、.....10時半より式を博物館(行幸記念館)階上の広間で行ふ、.....式を閉じ、記念館正面にて記念撮影。終って寄宿舍西端の4間に席をもうけ、折詰料理に御酒。参ずるもの総数28名。知事より談話の形式にて、今後行幸記念云々と云ふ如き名称は軽々しく使用せぬようにしてほしい事、.....の話あり。」(実験所日誌記事抜粋)

6月25日 臨海実習開始、2回生、7月7日まで、1回生は7月2日から

7月31日 「寄宿舍食堂に於いて所員一同野沢助手の壮行会を行ふ。」(実験所日誌記事抜粋)

8月1日 野沢兼文助手、離所  
 8月3日 波部忠重囑託、中海底棲動物調査  
 8月25日 波部忠重囑託、小浜湾底棲動物調査  
 9月21日 「内海講師軍務上取調のため来所」(実験所日誌記事抜粋)  
 9月24日 「内海中尉離所」(実験所日誌記事抜粋)  
 9月29日 「武田囑託、三ヶ月沈下木片中の *Teredo navalis*<sup>96)</sup>を検するに雄1、雌4にして卵は未だ発生せず。」(実験所日誌記事抜粋)  
 10月7日 「終日雨、夕刻波浪高く水族館への道まで上る、タウシマ号引上置きしもロープ切断され流失す。」(実験所日誌記事抜粋)  
 10月13日 「野沢助手帰所。」(実験所日誌記事抜粋)  
 11月23日 「寄宿舎の防空壕もいよいよ進捗し完璧のものが出来る筈。」(実験所日誌記事抜粋)  
 11月24日 「昼頃より警戒警報が出る、サイパンよりのB29約70機帝都空襲」(実験所日誌記事抜粋)  
 11月27日 「昼食時より警戒警報が出やがて空襲警報となる、.....13時過ぎ雲上に轟音あり北上、.....

田辺北約一里の地点にも爆弾投下せりとこの情報に緊張す。」(実験所日誌記事抜粋)  
 12月7日 「15時20分頃大地震あり<sup>96)</sup>標本瓶多数落下し破損又研究室の屋根の鬼瓦が落ちる等多少損害があったが一同無事。」(実験所日誌記事抜粋)  
 12月11日 「内海講師来所。」(実験所日誌記事抜粋)  
 12月15日 「内海講師離所。」(実験所日誌記事抜粋)  
 2月2日 「京都の理学部動植物教室へフトン1個を送る。」(実験所日誌記事抜粋)  
 3月14日 「大阪大空襲、田辺湾にも焼夷弾落下。」(実験所日誌記事抜粋)  
 3月15日 「焼夷弾臨海浦に多数打上る。」(実験所日誌記事抜粋)  
 3月18日 「早朝より敵艦載機グラマン来襲四双島附近で銃撃。」(実験所日誌記事抜粋)  
 3月25日 「本年度1回生実習の為来所、.....乗物の切符を買う困難と汽車の物凄い雑踏の中をも無事到着出来たるを喜び、.....」(実験所日誌記事抜粋)  
 3月26日 春季臨海実習開始、4月4日まで

## 1945 (昭和 20) 年度

### ◆実験所職員

◇4月1日現在在職者

所長 駒井 卓 (兼任、動物学教室教授)

講師 内海 富士夫 (応召)

助手 時岡 隆 (応召)

助手 野沢 兼文

助手 武田 信之

囑託 黒田 徳米

囑託 波部 忠重

囑託 坂口 総一郎

研究囑託 粕谷 千代子

雇員 雑賀 弥之助

雇員 真鍋 繁次郎

雇員 正木 常蔵

雇員 青山 彦六

雇員 貴田 芳子

雇員 浦 舟二

雇員 芝田 和藏

◇年度内異動 (日付順)

雇員 青山 彦六 (退職、1945.09.30)

雇員 貴田 芳子 (退職、1945.09.30)

講師 内海 富士夫 (除隊帰任、1945.12.09)

囑託 武田 信之 (真珠研究所所員に転出、兼任、1946.01.01)

所長 駒井 卓（退任、1946.01.31）

所長 宮地 傳三郎（就任、動物学教室教授、1946.02.01）

嘱託無給 雑賀 弥之助（採用換、1946.02.01）

助手 野沢 兼文（死亡退職、1946.02.27）

講師嘱託 松井 佳一（採用、1946.02.28）

助手 時岡 隆（復員帰国、1946.03.07）

#### ◆実験所記事（4月1日－3月31日）

4月4日 「午前中ホヤの実習の続き。午後山根・遠藤・生島三人湯崎日本稀有金属会社へ見学に行く。.....今日は寒い風が強い」（実験所日誌記事抜粋）  
実験所日誌はこの記事をもって中断、12月9日に再開。  
11月13日 「野沢助手.... 田辺赤木医院へ入院」（実験所日誌記事抜粋；内海富士夫による加筆）  
12月5日 「坂口嘱託官舎よりサンマーハウスに移ル。」（実験所日誌記事抜粋；内海富士夫による加筆）  
12月9日 「応召中の内海講師復員除隊にて帰郷中ノ処愈々本日家族携行帰所。」（実験所日誌記事抜粋）  
1月1日 「敗戦セル日本ノ新生セル姿トシテハ余リニモミジメナ新春ヲ迎フ。所内荒廃シ秩序乱レ昔ノ面影ナク轉タ将来ニ希望ヲ駆セツ、盛ナリシ往事ヲ偲ブトシキリ也。現在職員トシテハ内海講師、坂口嘱託、雑賀嘱託、武田嘱託、粕谷千代子傭ヒ、野沢助手、浦雇員ノ七名ナルモ、野沢助手ハ.... 入院、武田粕谷両氏ハ近ク退職ノ予定。..... 多事多難ノ本年ライカニ展開スルヤ.... 」（実験所日誌記事抜粋）

1月9日 「3月迄ヲ目途トシテ所内ノ整理ヲ断行、外来研究者モコノ夏迄ニハ研究デキ得ルヤウ予定ヲ以テ仕事ヲ始メントス。」（実験所日誌記事抜粋）

1月30日 「一月来各地共異常的ニ温暖ヲ呈シ冬知ラズ、平年ヨリ5-6度高シ。」（実験所日誌記事抜粋）

1月31日 「今日アマノリ（ムラサキノリ）、メノリ（ハバノリ）口開ケニテ浜賑フ。然シ水温高キ為カ繁殖状況不良」（実験所日誌記事抜粋）

2月9日 「午前ヨリ午後ニカケ宮地教授（駒井所長代理トシテ）ヲ中心ニ懸案ノ実験所ノ問題ヲ民主的ニ相談ノ上下記ノ事項ガ議決サレタ。1. 理学部職員組合結成ノ首旨ニモトヅキ実験所ヨリモ委員二名ヲ選出スルコトニナリ.... 5. 実験所ノ20年度ノ借金5687円77銭アリ従来ノ借金ヲ加エルト1万円ニ上リ..... 」（実験所日誌記事抜粋）〔註. 宮地教授所長就任の記事は3月24日にある〕

2月11日 「紀元節ナルモ民主主義ニ則リ式ヲ行ハズ、朝朝来ノ熊野農林ニ疎開中ノ最后ノ荷（机・書棚）帰ッテクル。」（実験所日誌記事抜粋）〔註. 熊野農林とは和歌山県立熊野高等学校の前身〕

3月18日 「時岡隆助手来所。約三年11ヶ月ニ亘ル出征間ノ叢話ヲ一同キク。」（実験所日誌記事抜粋）

#### ◆参考記事

◇8月15日、太平洋戦争敗戦終戦